

# 東北森林管理局管内の 木材需給及び木材価格等について

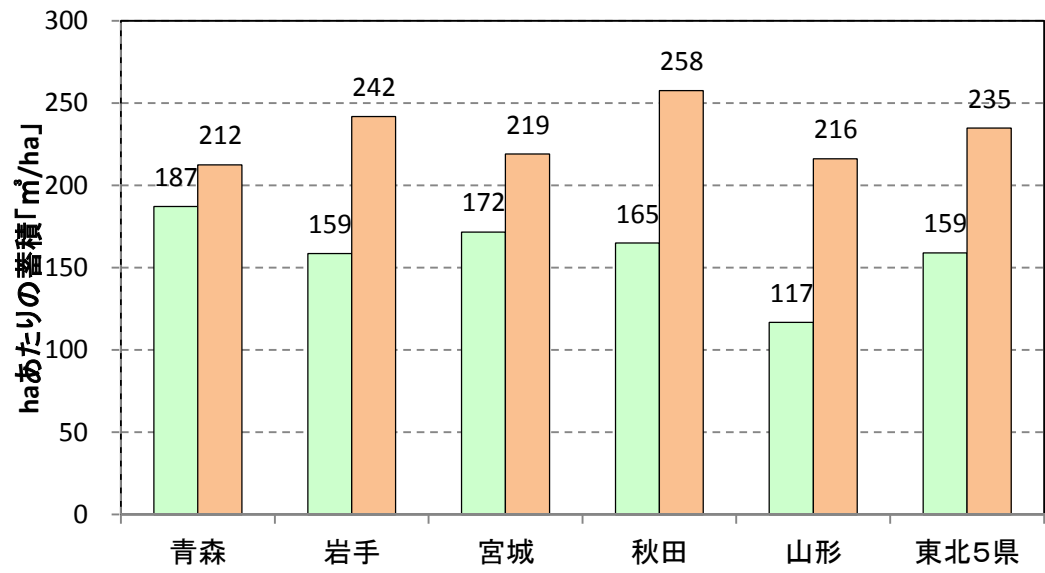
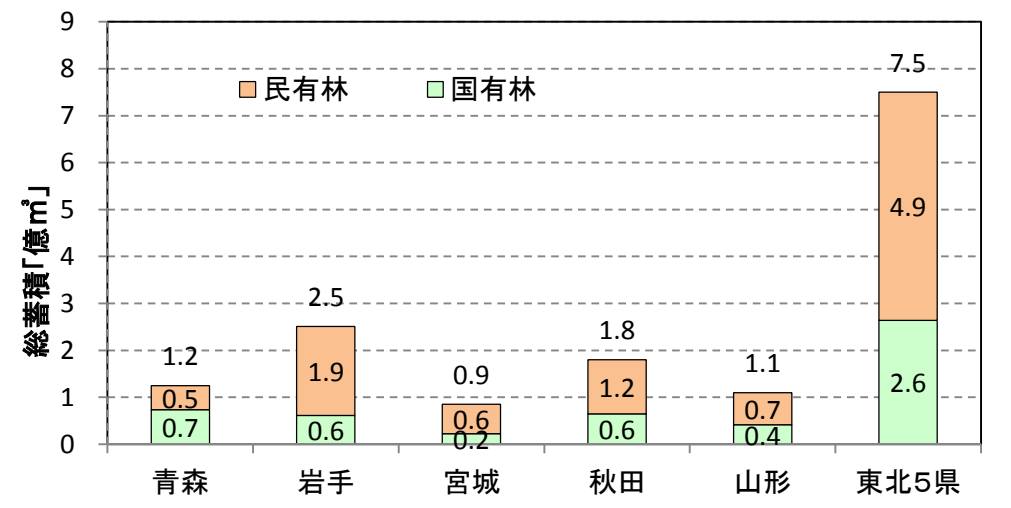
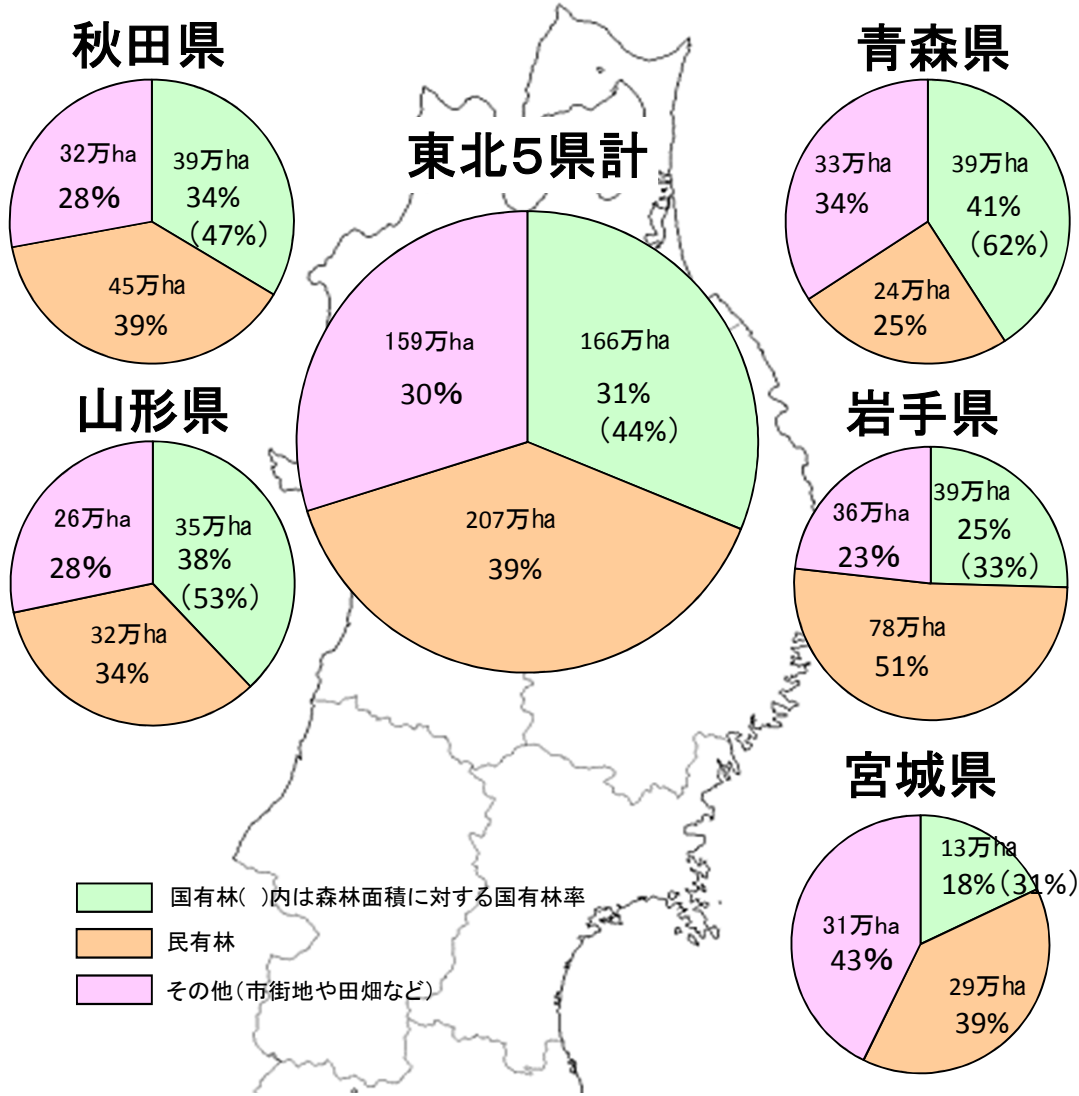
令和元年6月13日(木)

東北森林管理局



# ■ 東北森林管理局管内5県の森林面積及び森林蓄積量

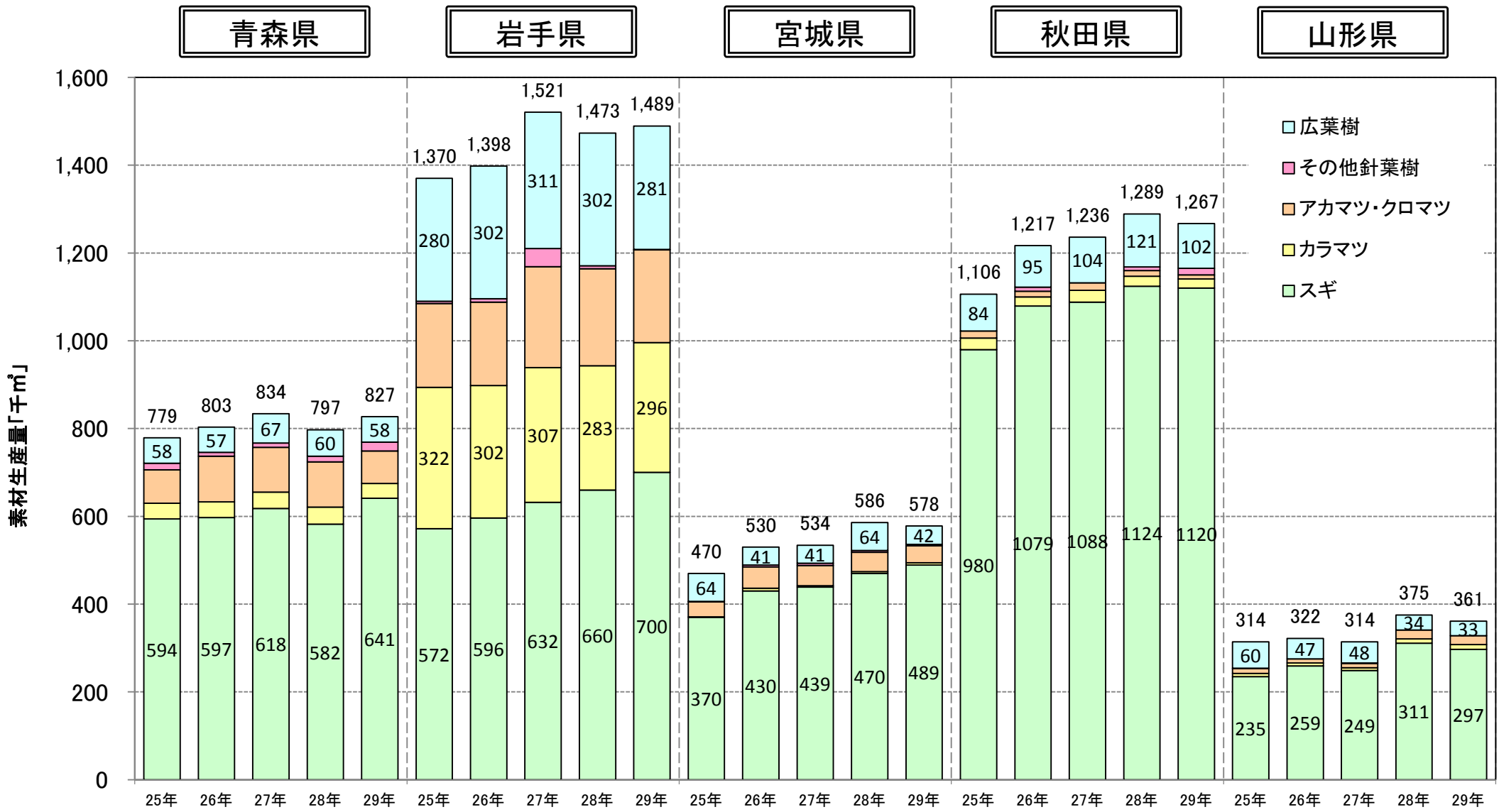
○ 管内東北5県の蓄積量は約7.5億m<sup>3</sup>で、全国52億m<sup>3</sup>の約14%相当。  
 ○ 国有林は森林面積の約44%を占め、蓄積では35%。民有林のha当たりの蓄積は200m<sup>3</sup>/haを上回る。



出典：国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」(平成30年10月1日)、林野庁「森林資源の現況」(平成29年3月31日現在)

# ■ 東北森林管理局管内各県の国産材の樹種別素材生産量(民・国の合計)

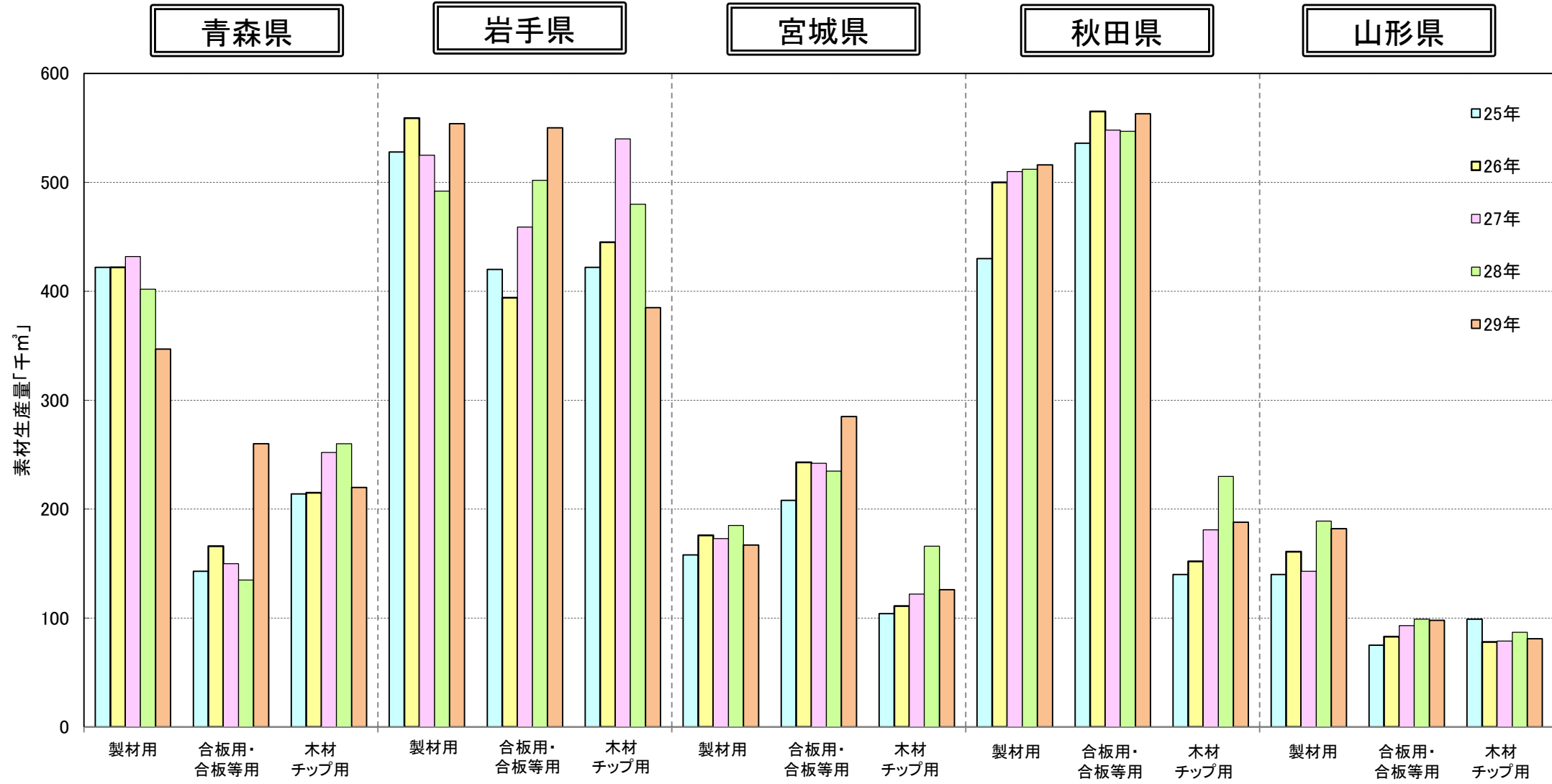
○ 生産樹種は県によって異なる。青森県・宮城県・秋田県・山形県はスギが主体。  
 ○ 岩手県ではスギに加え、カラマツ・アカマツ・クロマツ・広葉樹の生産量が多い。



出典：農林水産省「木材統計」(29年度までの集計値)  
 注意：平成29年度から集計項目の「合板用」が新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更となったため、平成28年以前の数値と直接的な比較はできない

# ■ 東北森林管理局管内各県の需要部門別国産材の素材生産量

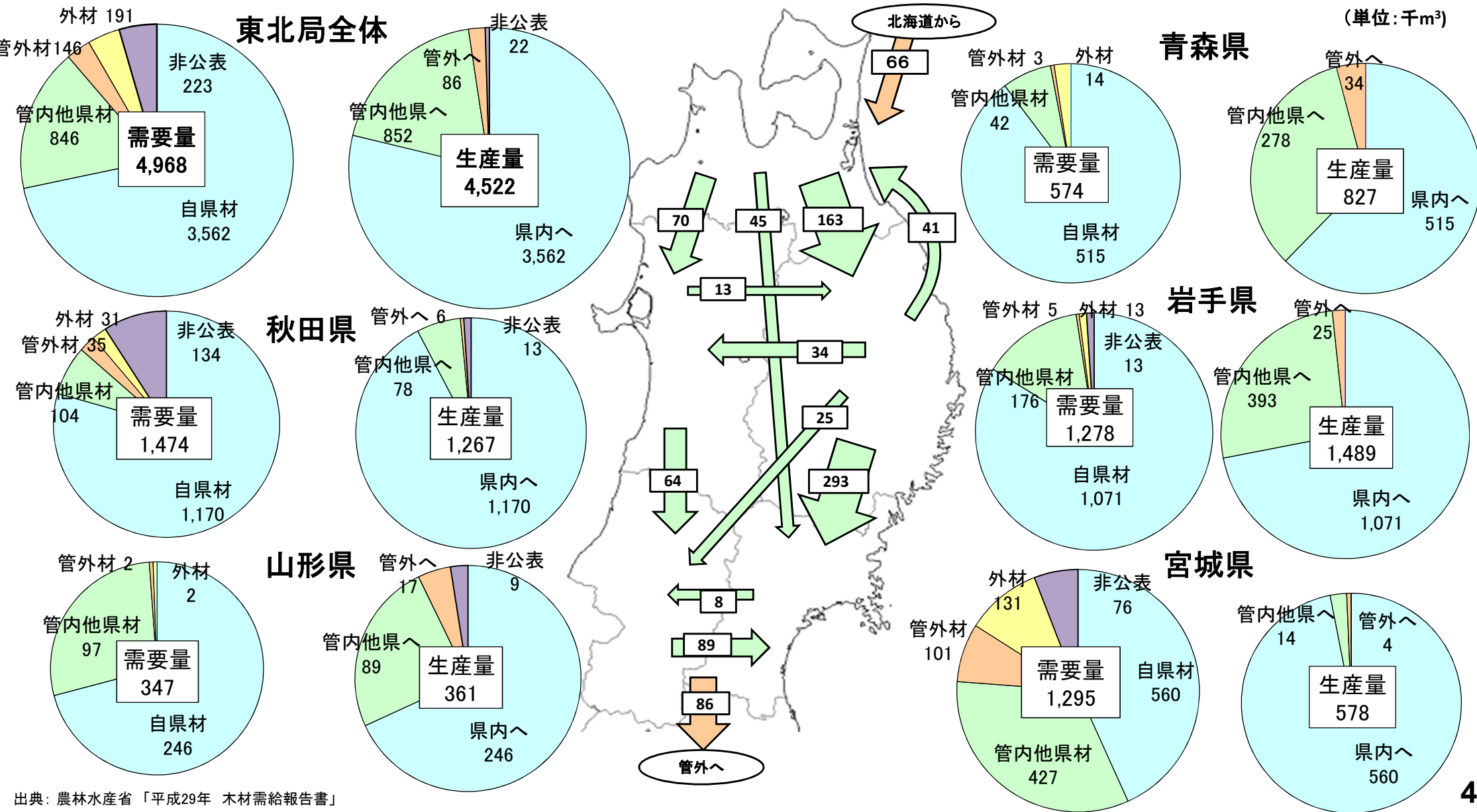
- 29年では製材用の比率が高いのは青森県(42%)、秋田県(41%)、山形県(50%)。
- 29年では合板等用の比率は秋田県(44%)、宮城県(49%)が高い。
- 29年では木材チップ用の比率は秋田県(15%)が低い。



出典：農林水産省「木材統計」(29年度までの集計値)  
 注意：平成29年度から、「合板用」が新たにLVL用を含めた「合板等用」に変更となった

# 平成29年における東北森林管理局管内各県の主な素材流通構造

- 東北森林管理局管内5県で生産された素材は、管内での流通が約98%を占める。
- 青森県、岩手県、山形県では生産量が需要量を上回り、特に青森県は生産量の約38%を他県に出荷。

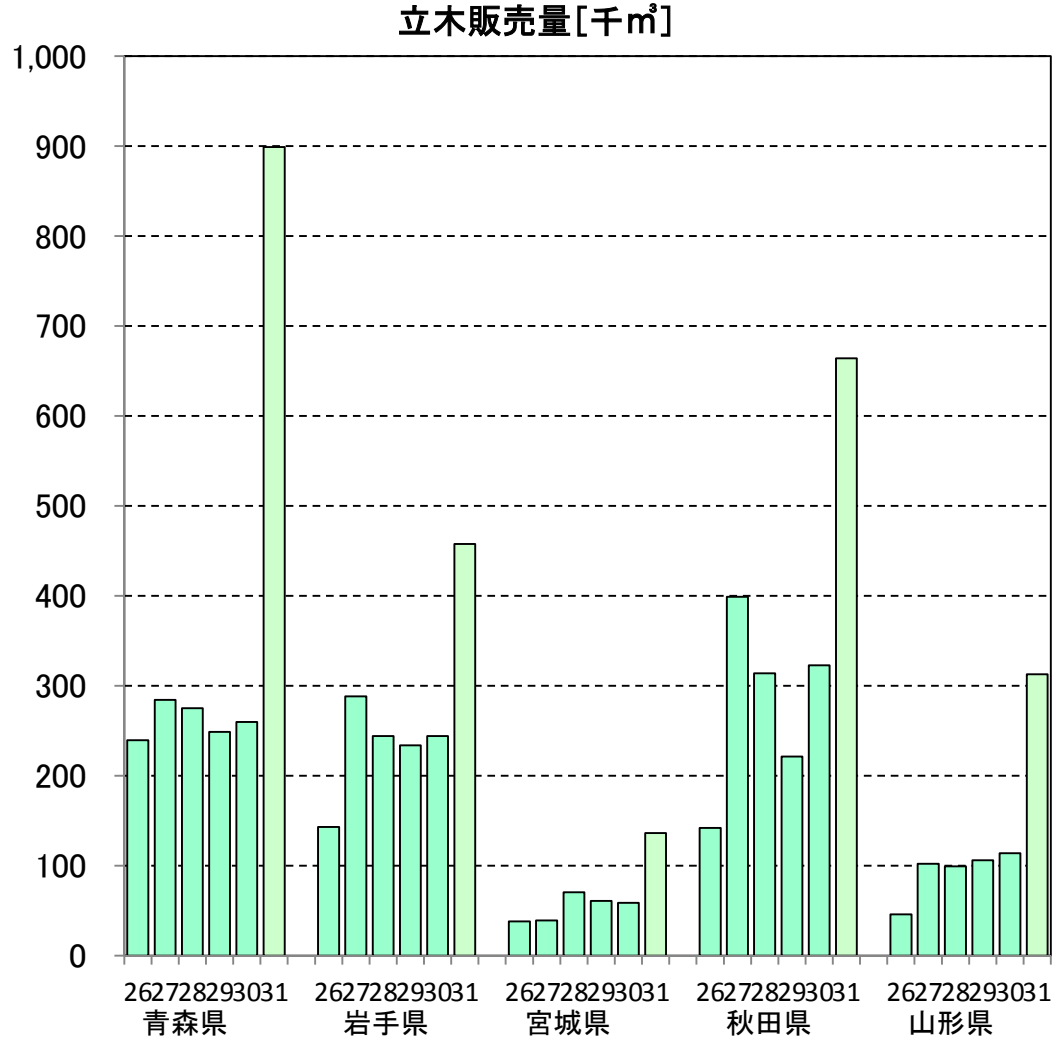
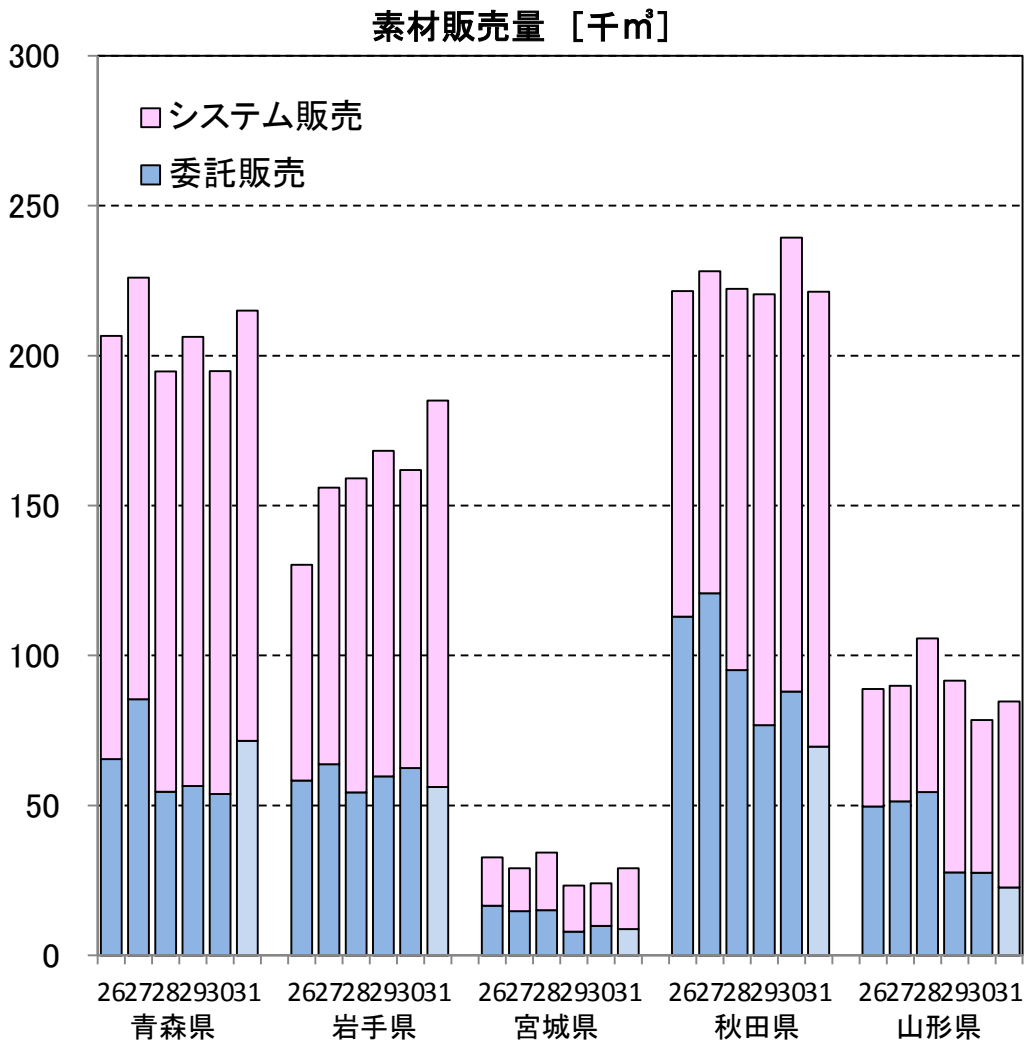


出典: 農林水産省「平成29年 木材需給報告書」

# ■ 東北森林管理局管内5県の国有林材の販売実績の推移

○ 平成30年度の各県におけるシステム販売は59%～72%で東北5県では65%だった。31年度計画のうち各県におけるシステム販売は67%～73%で、東北5県では約69%となっている。

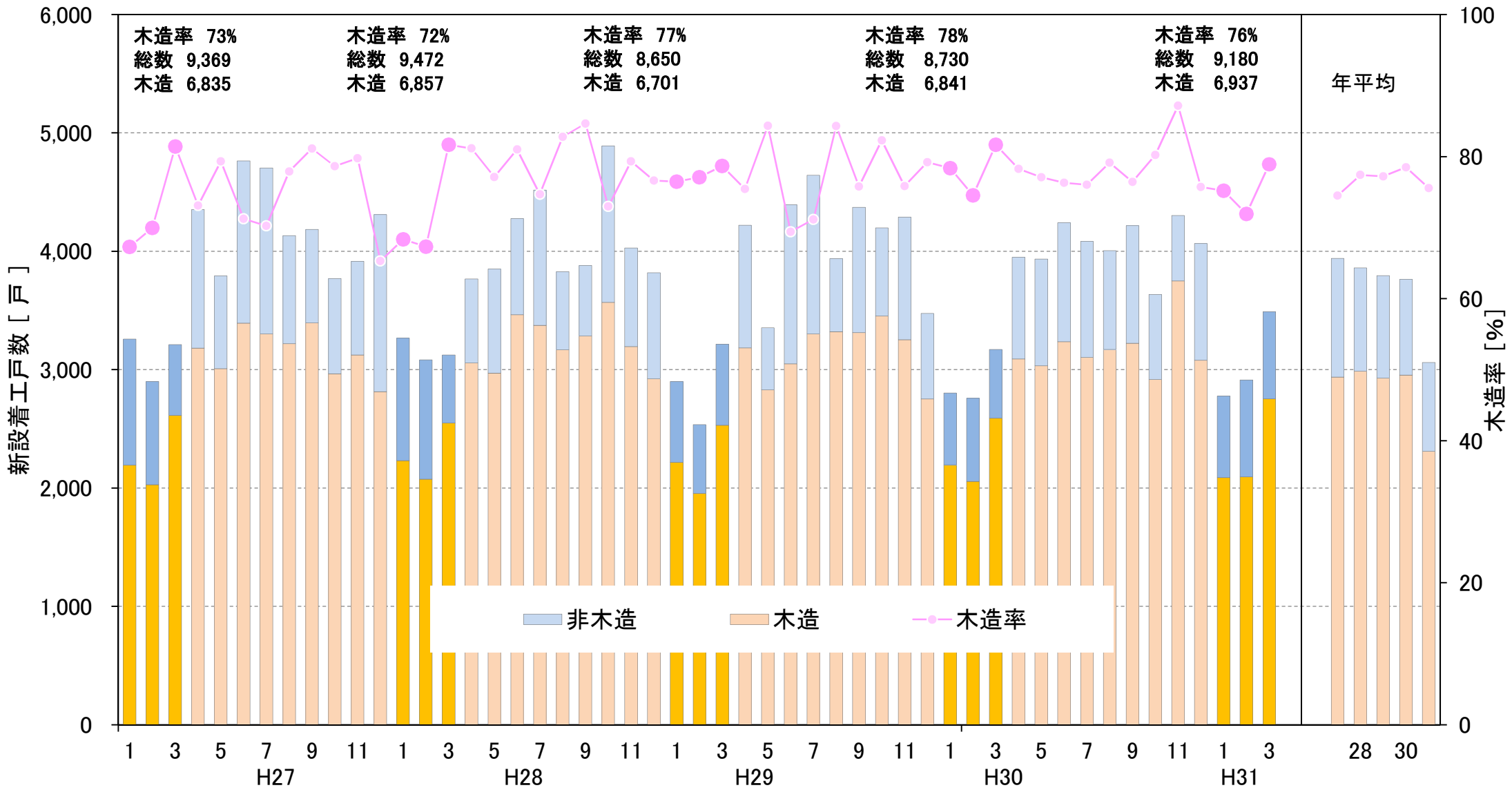
○ 立木販売実績は26年度と30年度を比較すると+64%、前年度比では+15%。



注1: 素材販売量は丸太の材積であり、立木販売量は立木材積である。  
 注2: 31年度は計画量である。  
 出典: 林野庁業務資料

# ■ 東北森林管理局管内5県の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

○ 東北5県の平成31年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より450戸増加した。  
 この期間の木造は昨年同期より96戸増加し、木造率は2%減少した。

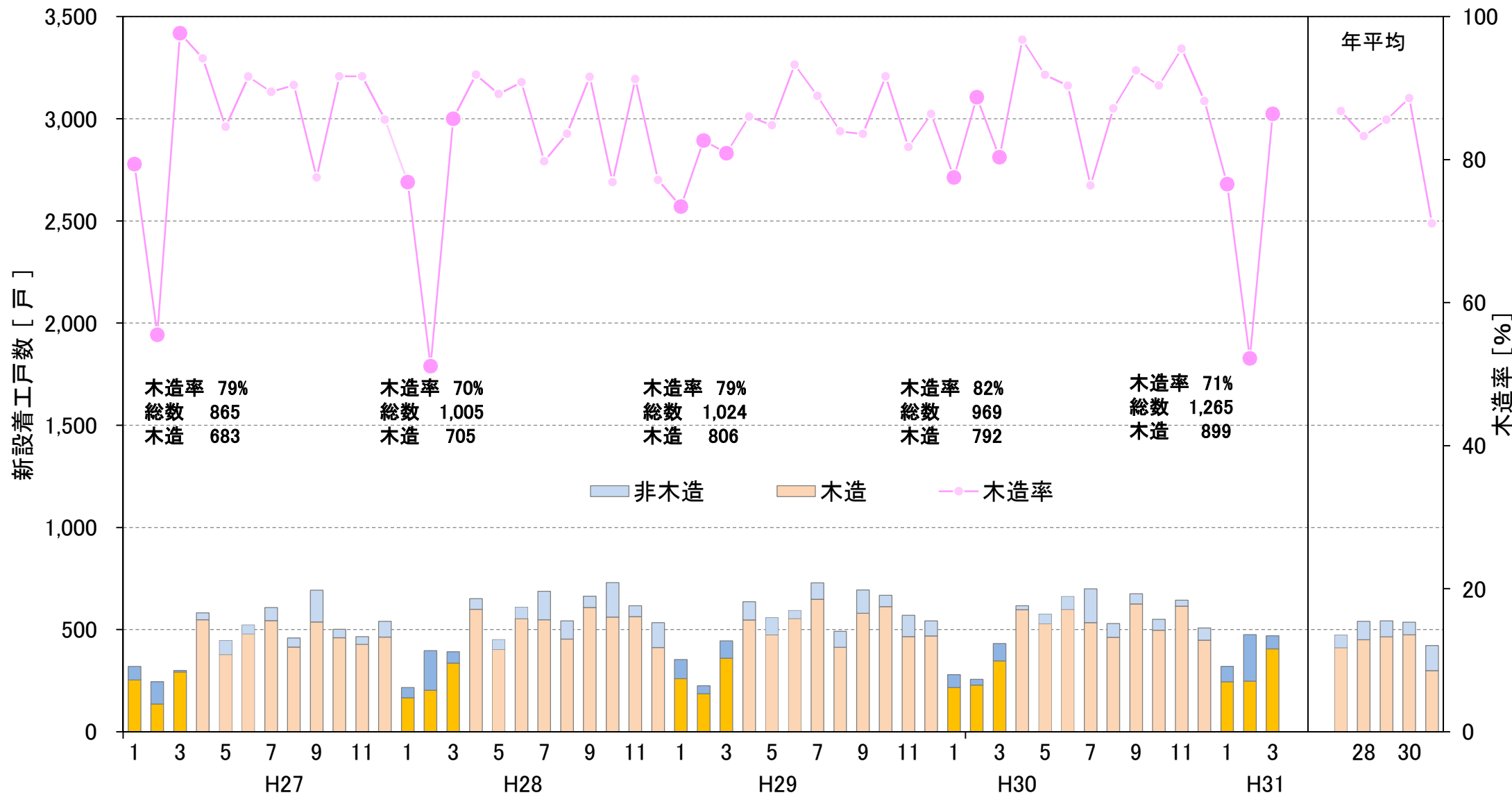


出典：国土交通省「住宅着工統計」



# 青森県の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

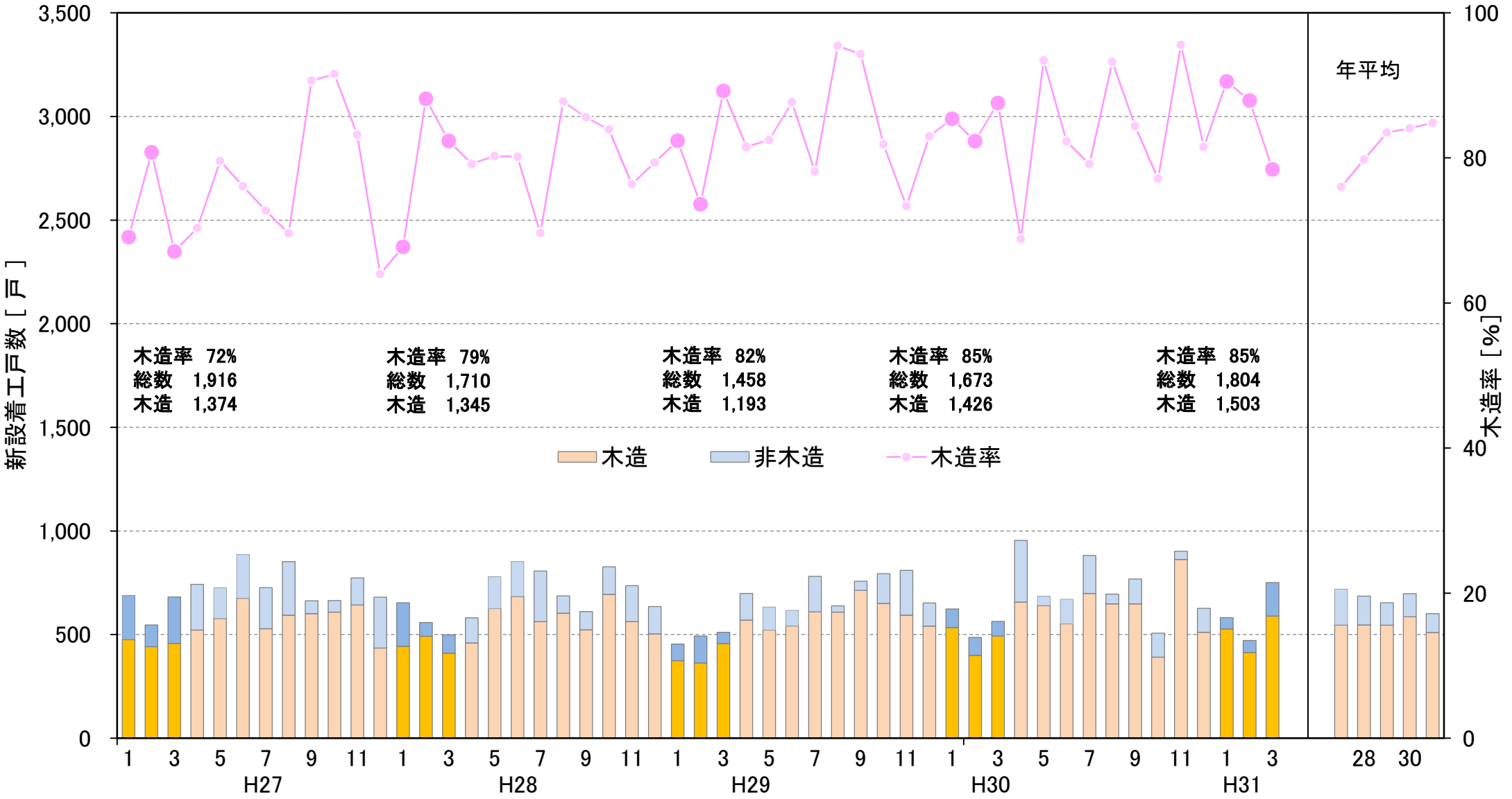
○ 青森県の平成31年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より387戸増加した。  
この期間の木造は107戸増加し、木造率は11%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 岩手県の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

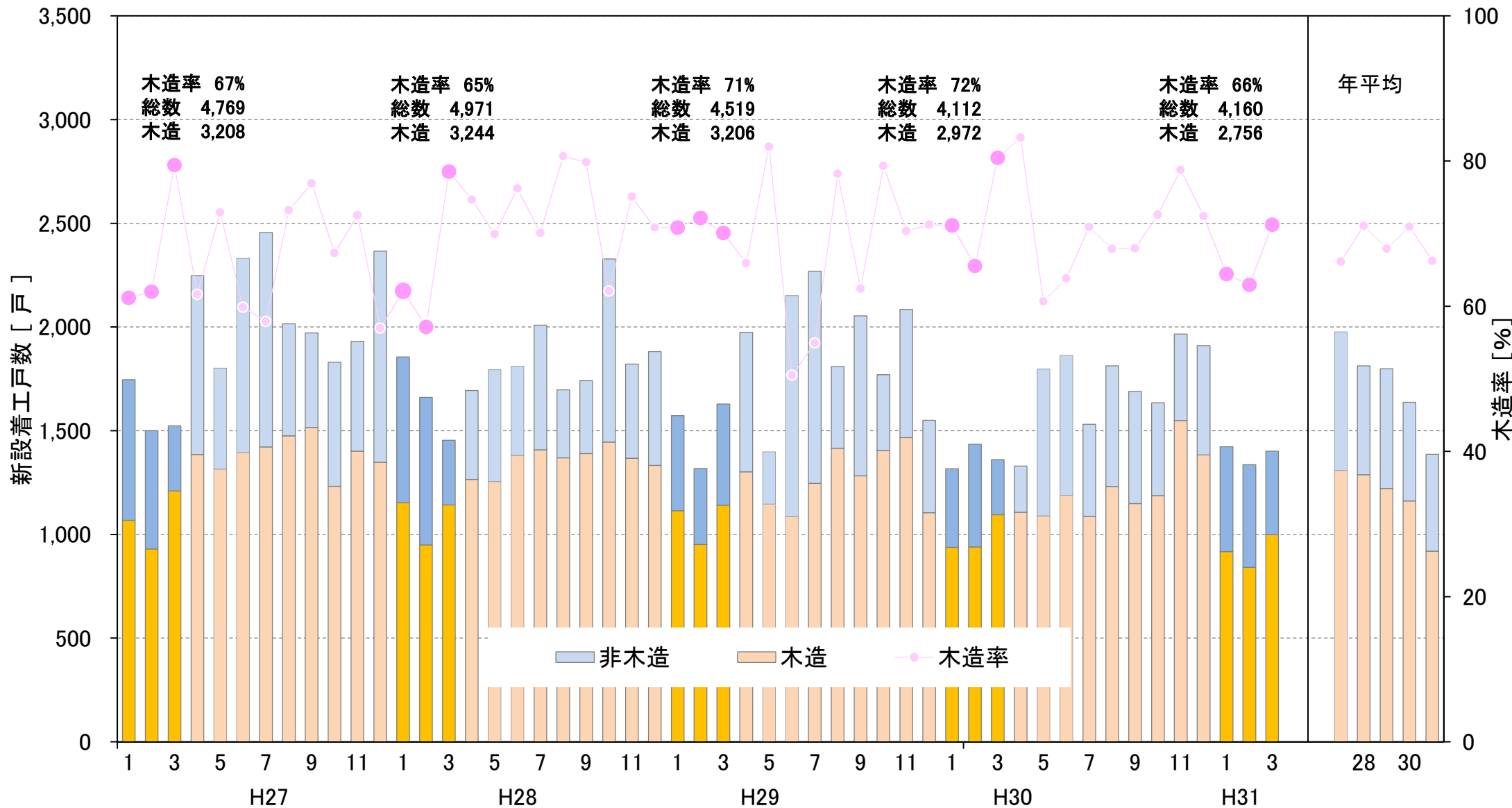
○ 岩手県の平成31年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より131戸増加した。  
この期間の木造は77戸増加し、木造率の増減はなかった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 宮城県の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

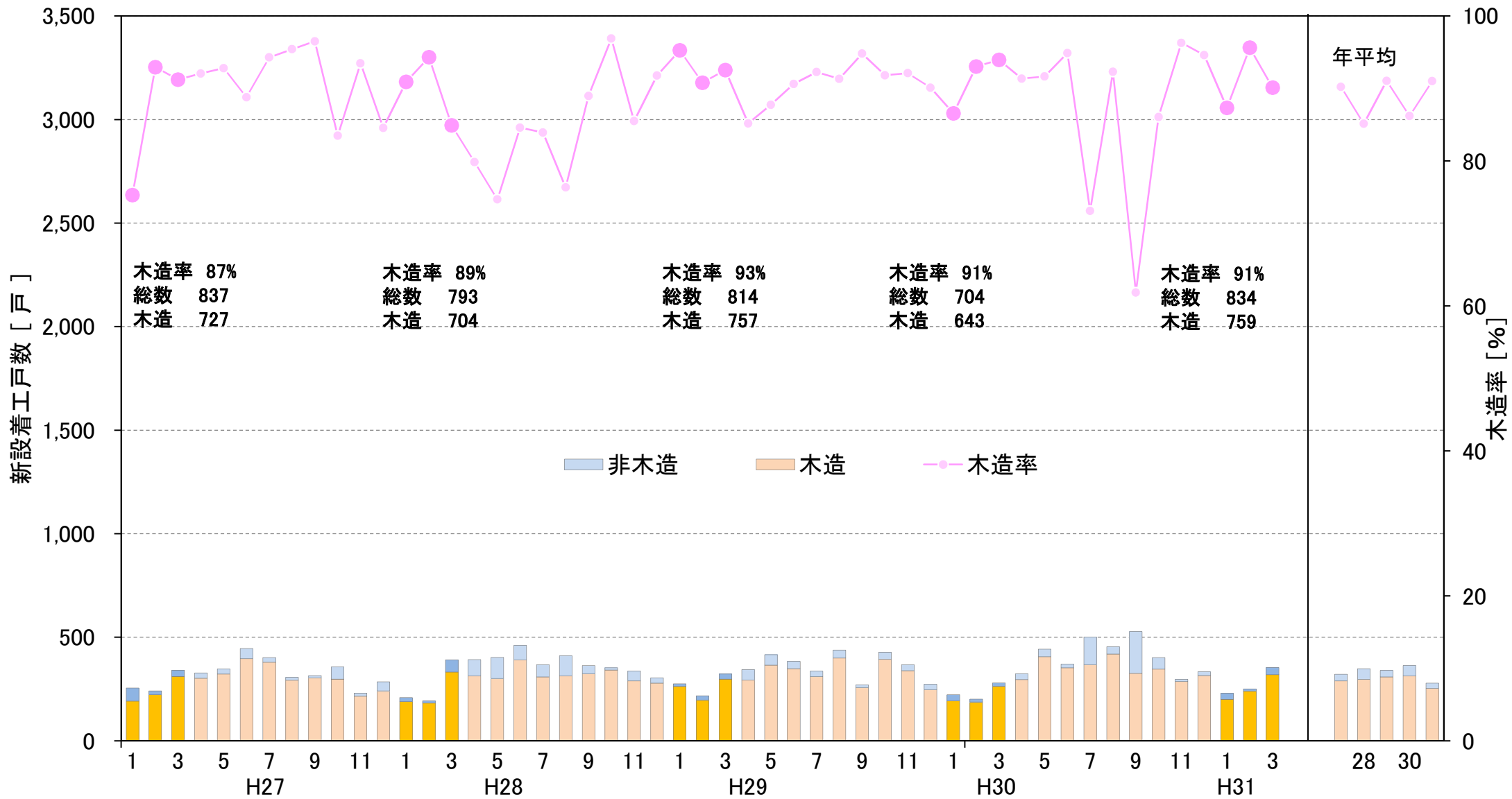
○ 宮城県の平成31年1～3月期の新設住宅着工戸数は、昨年同期より48戸増加した。  
この期間の木造は216戸減少し、木造率の6%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 秋田県の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

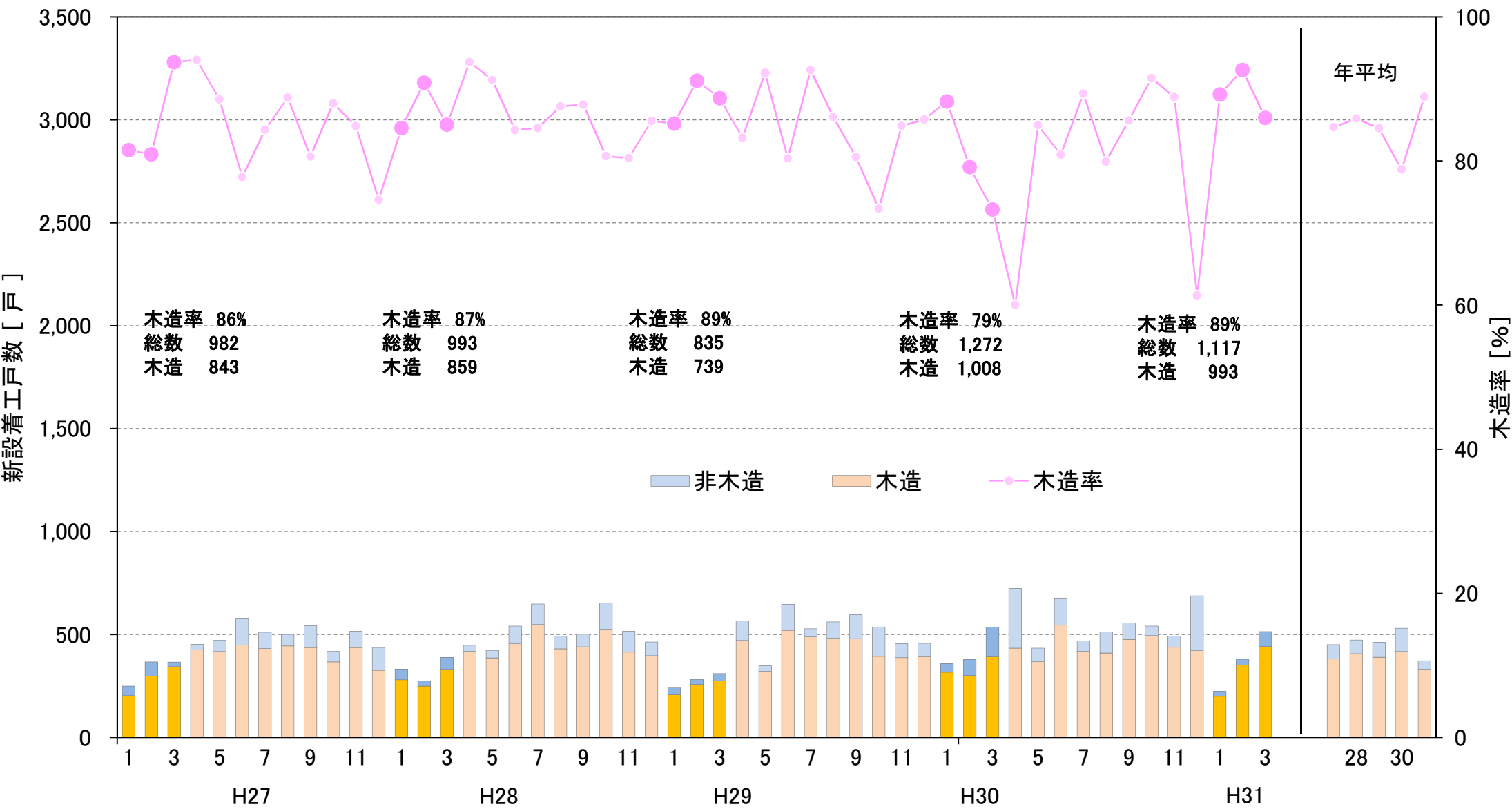
○ 秋田県の平成31年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より130戸増加した。  
この期間の木造は116戸増加し、木造率は増減はなかった。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 山形県の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

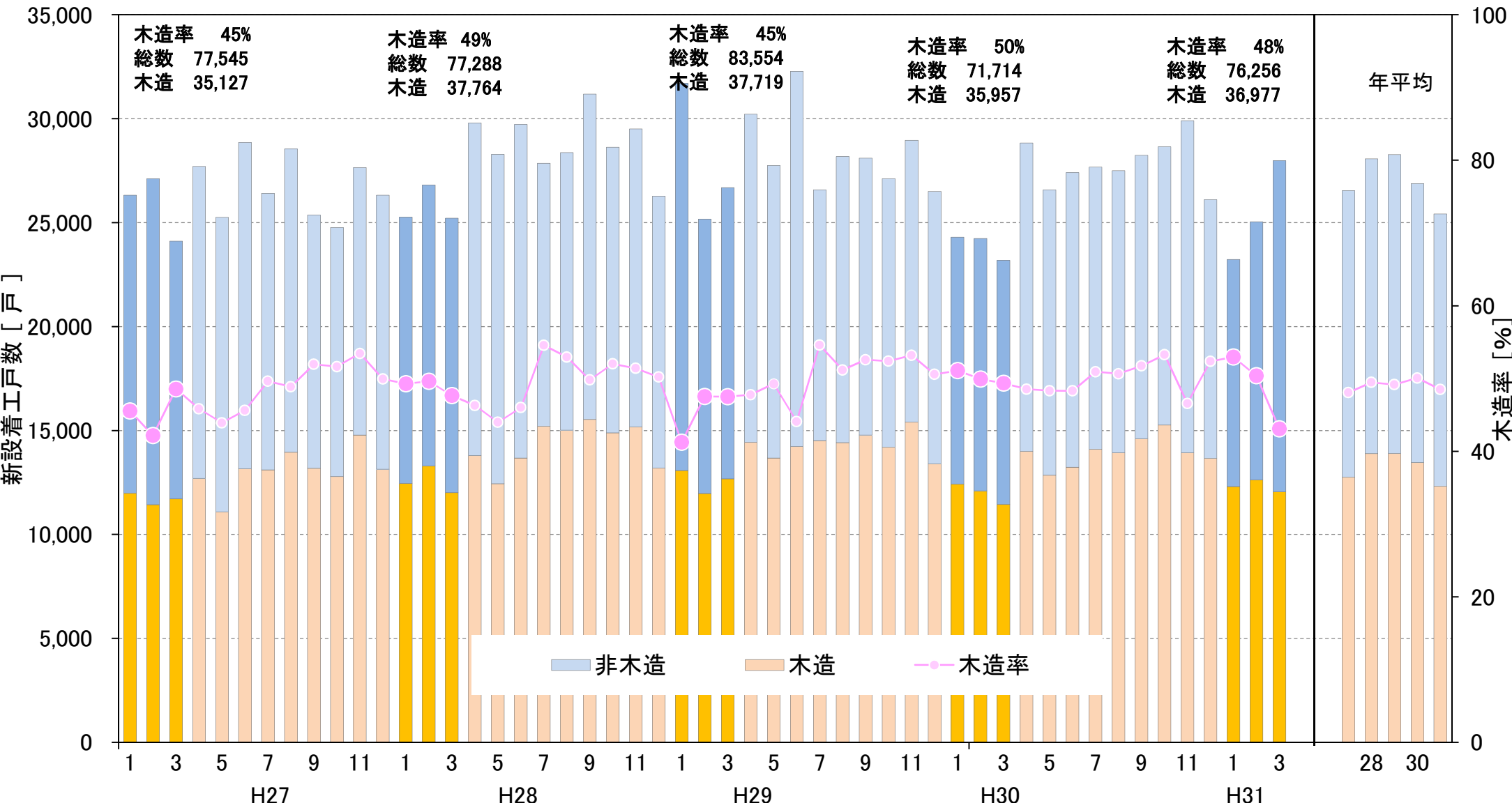
○ 山形県の平成31年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より155戸減少した。  
この期間の木造は15戸減少し、木造率は10%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設住宅着工戸数の推移 (平成27年1月～31年3月)

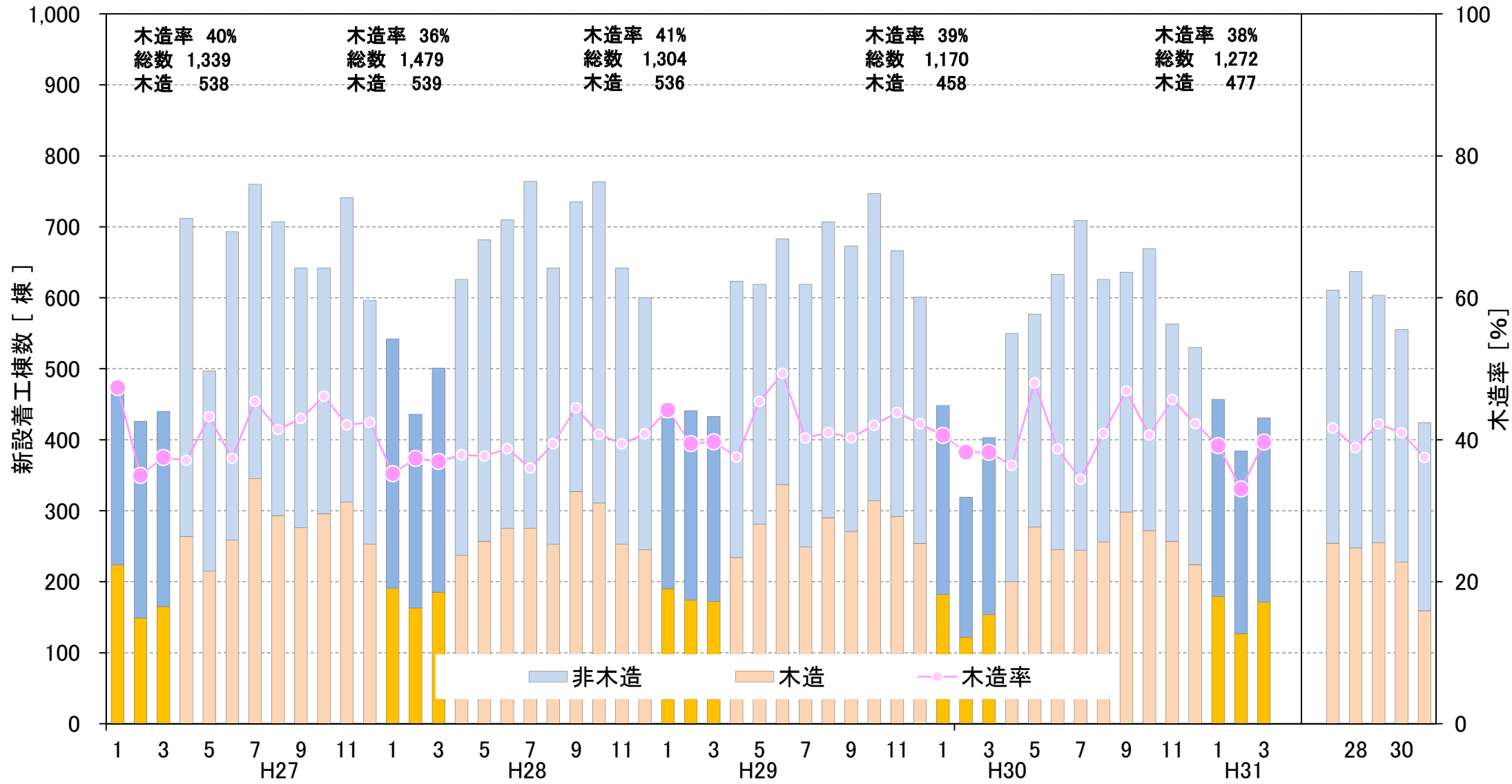
○ 関東主要都市の平成31年1～3月期の新設住宅着工数は、昨年同期より4,542戸増加した。  
この期間の木造は1,020戸増加し、木造率は2%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 東北森林管理局管内5県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

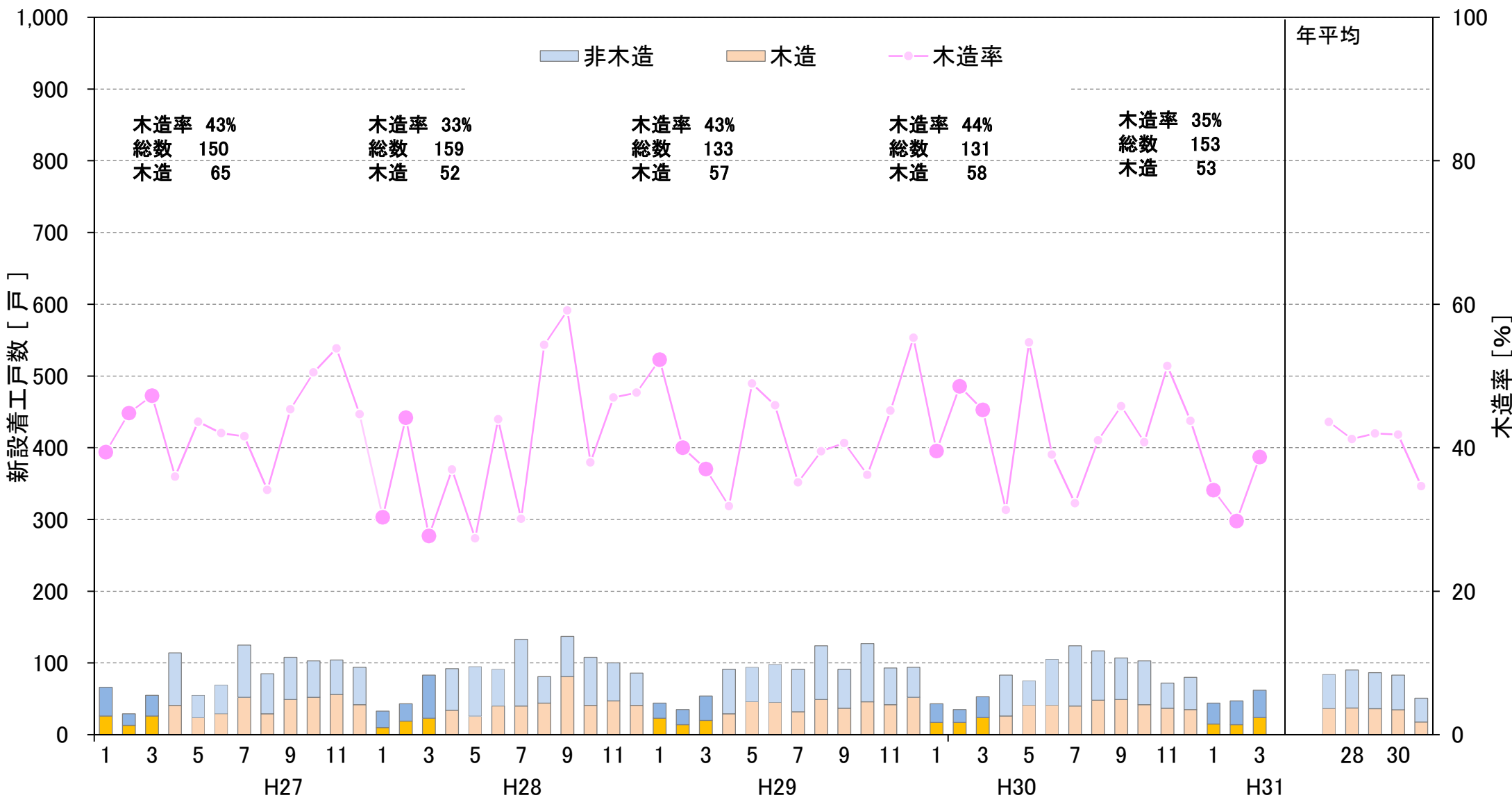
○ 東北5県の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より102棟増加した。  
 この期間の木造は昨年同期より19棟増加し、木造率は1%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 青森県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

○ 青森県の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より22棟増加した。  
この期間の木造は5棟減少し、木造率は9%減少した。

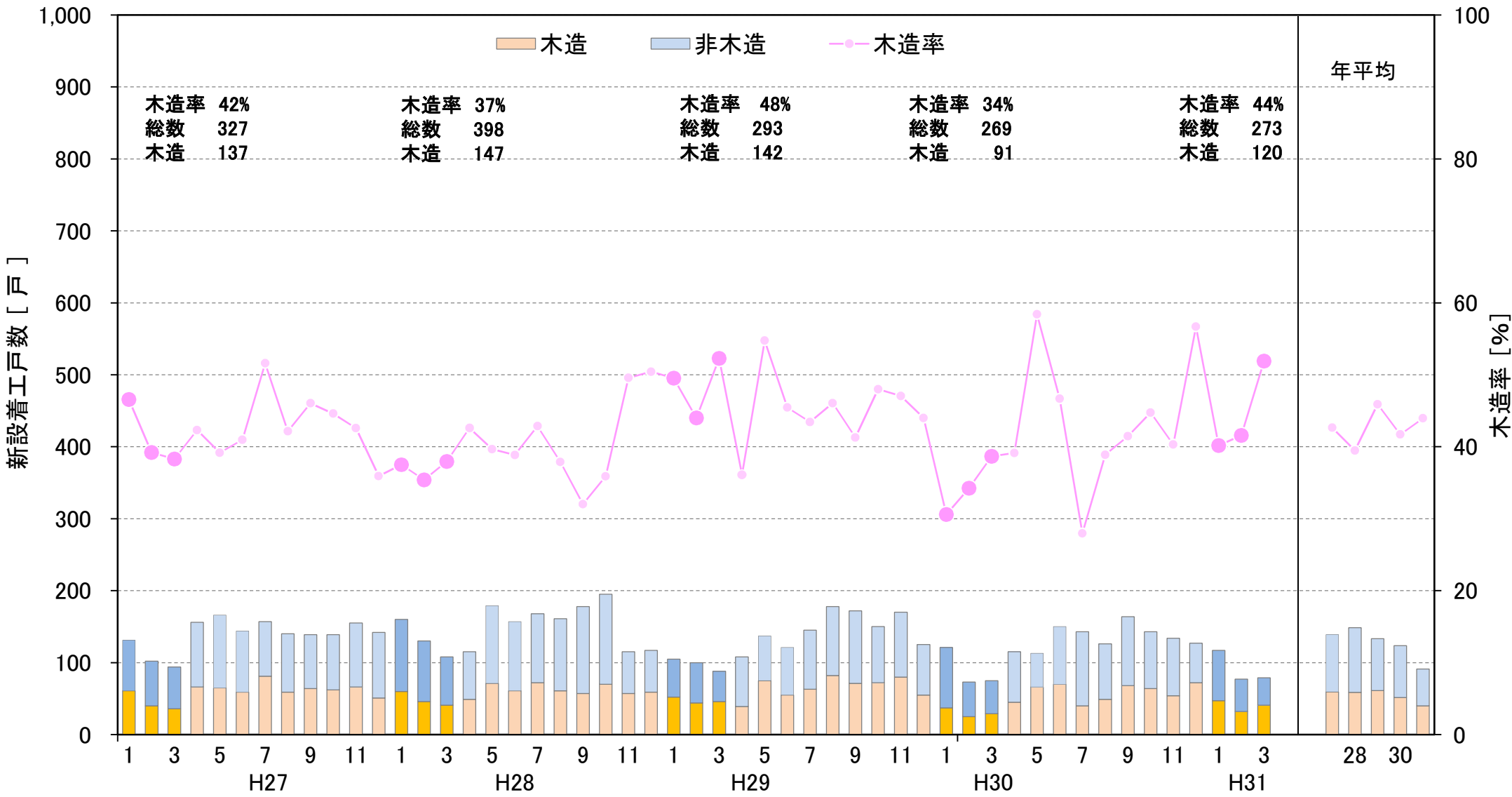


出典：国土交通省「住宅着工統計」



# ■ 岩手県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

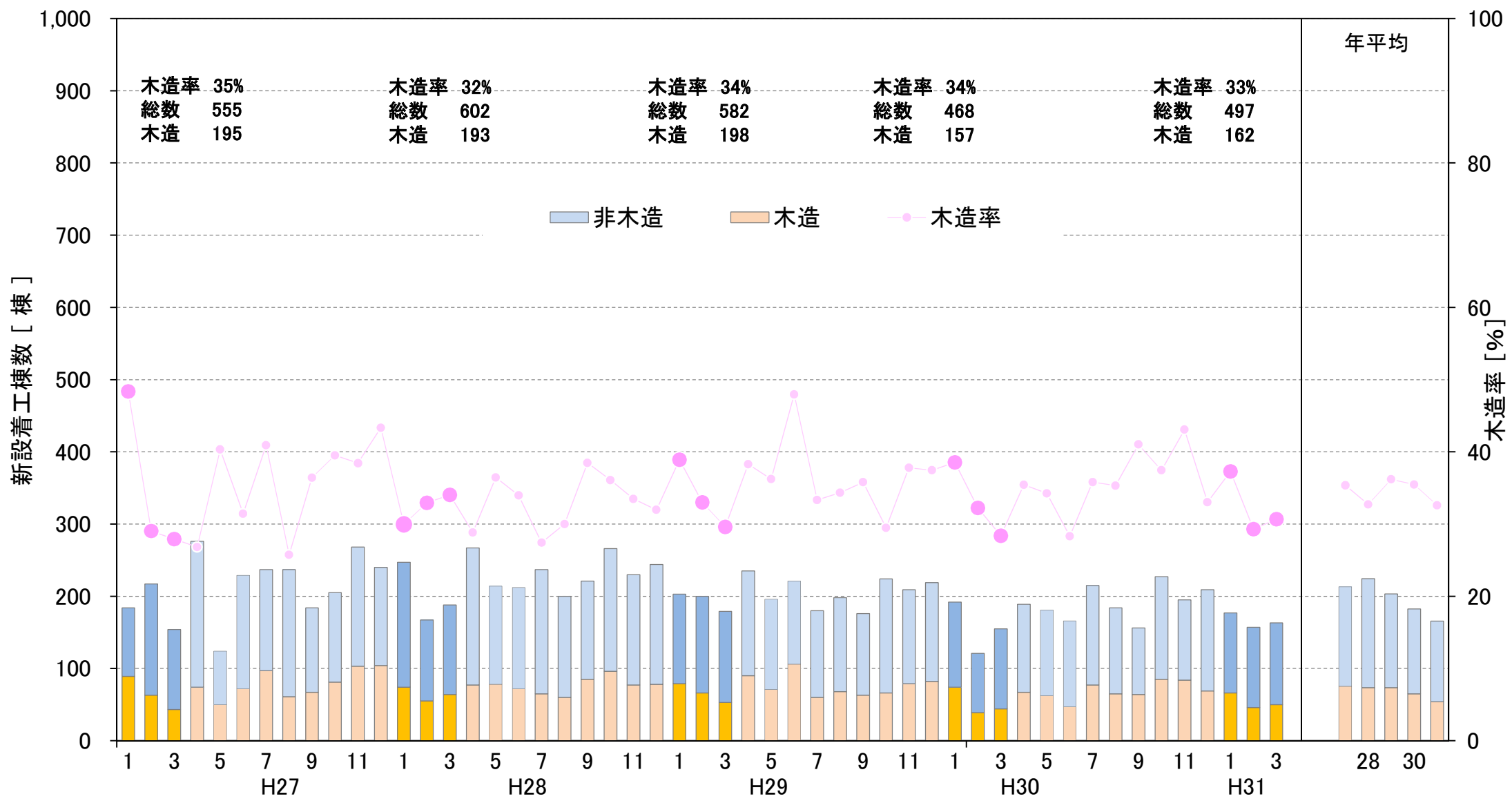
○ 岩手県の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より4棟増加した。この期間の木造は29棟増加し、木造率は10%増加した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 宮城県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

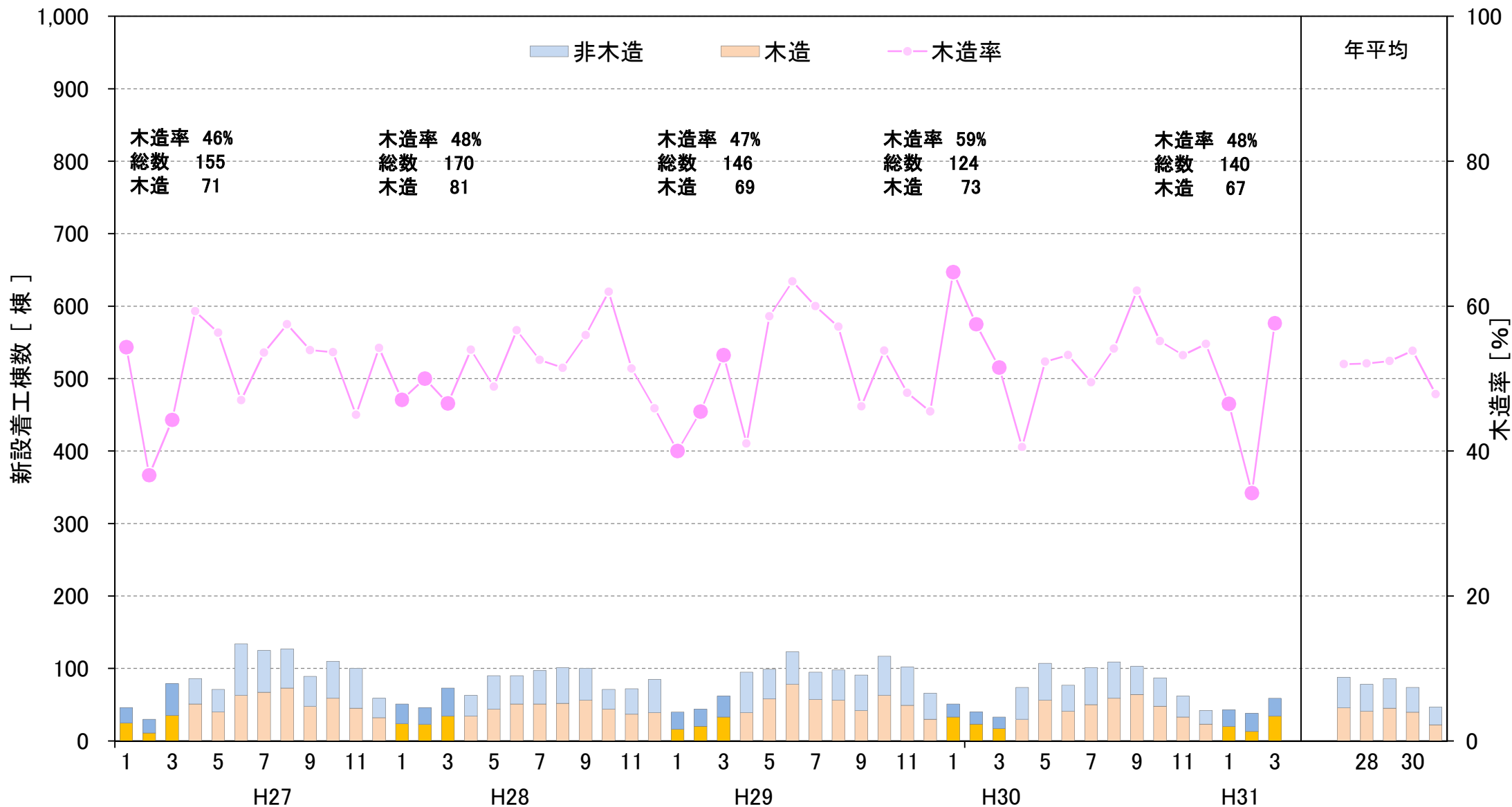
○ 宮城県の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より29棟増加した。  
この期間の木造は5棟増加し、木造率は1%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 秋田県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

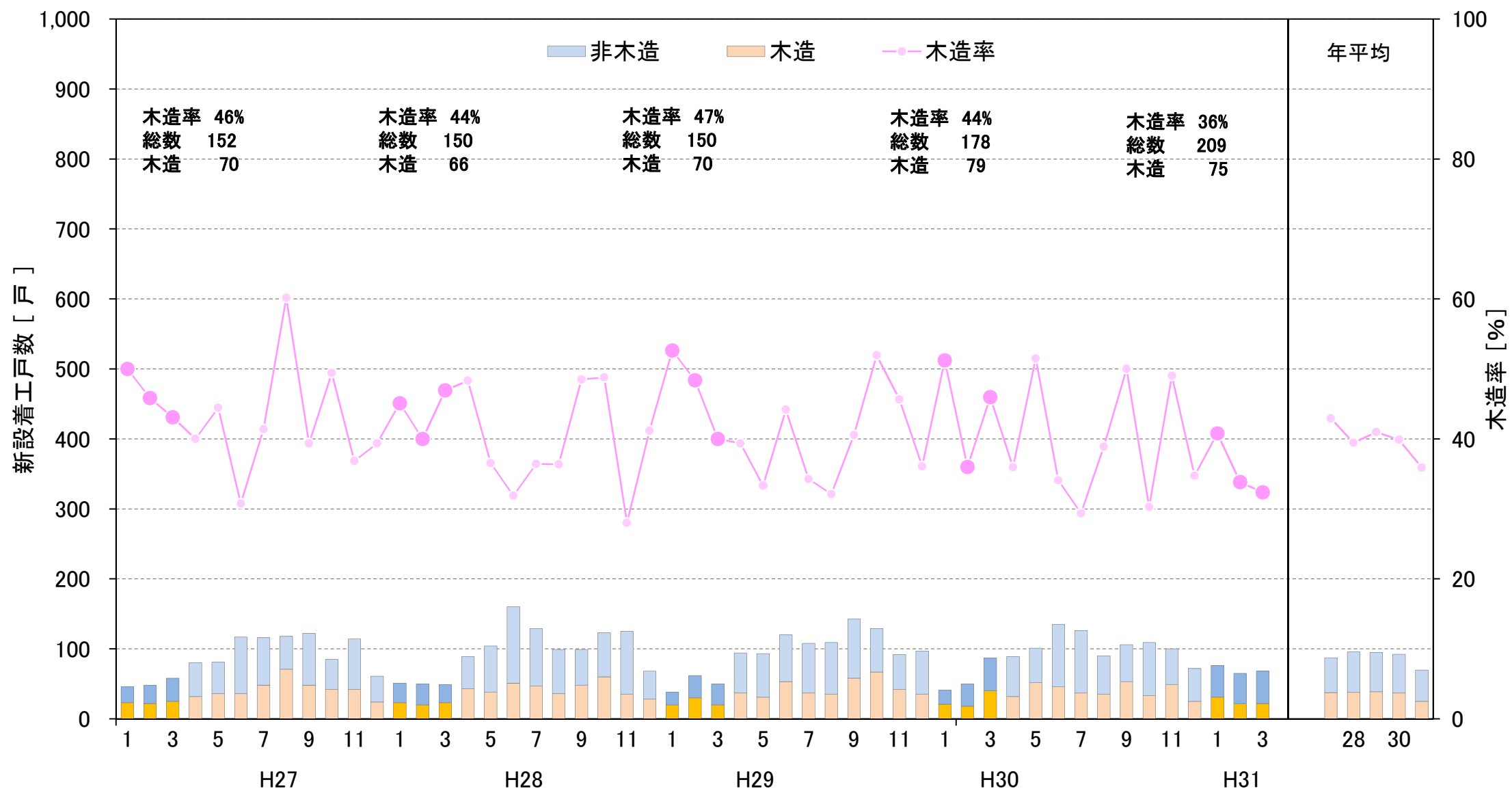
○ 秋田県の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より16棟増加した。  
この期間の木造は6棟減少し、木造率は11%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# 山形県の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

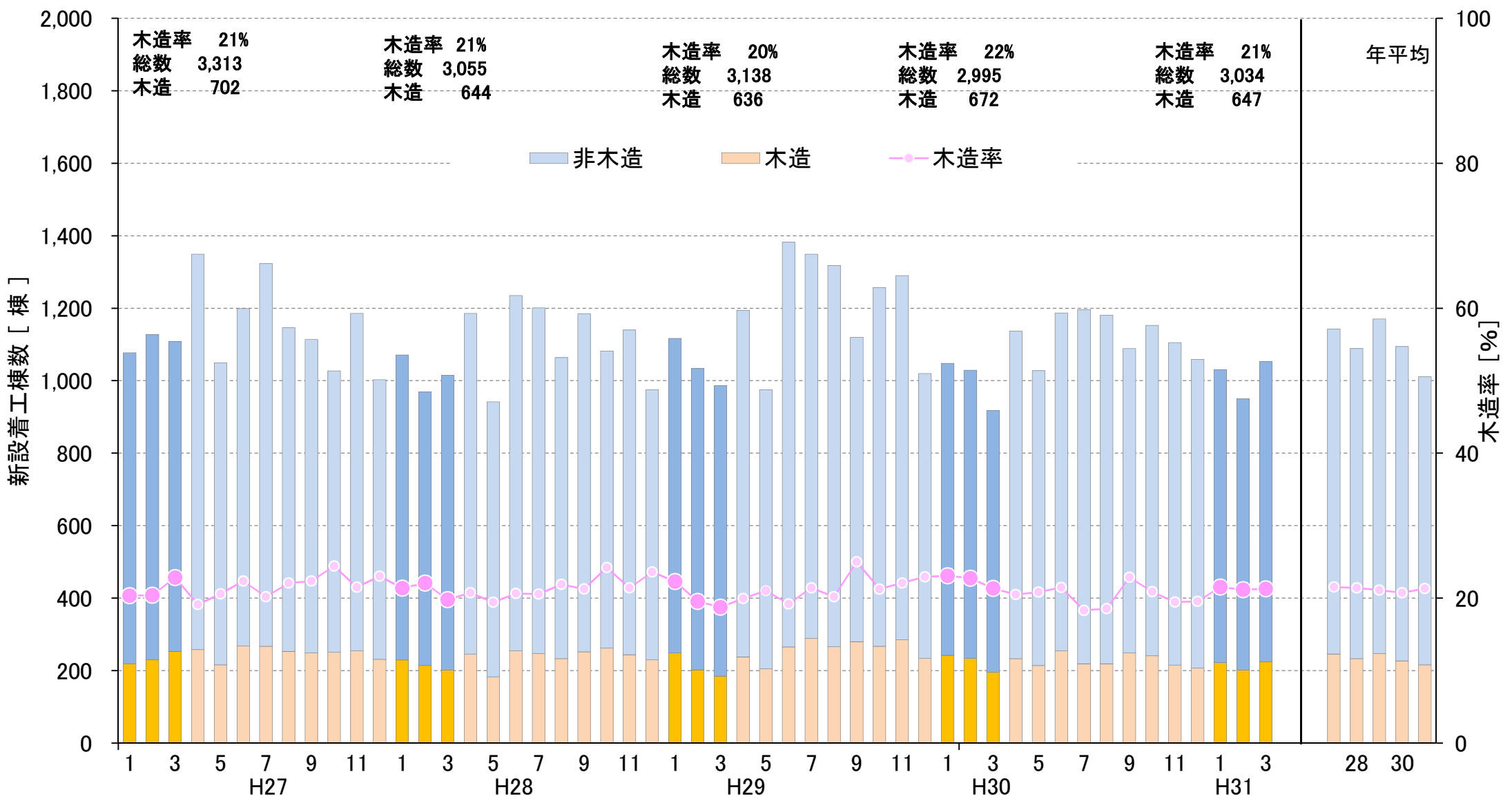
○ 山形県の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より31棟増加した。  
この期間の木造は4棟減少し、木造率は8%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 埼玉、千葉、東京、神奈川の新設産業用建築物着工棟数の推移 (平成27年1月～31年3月)

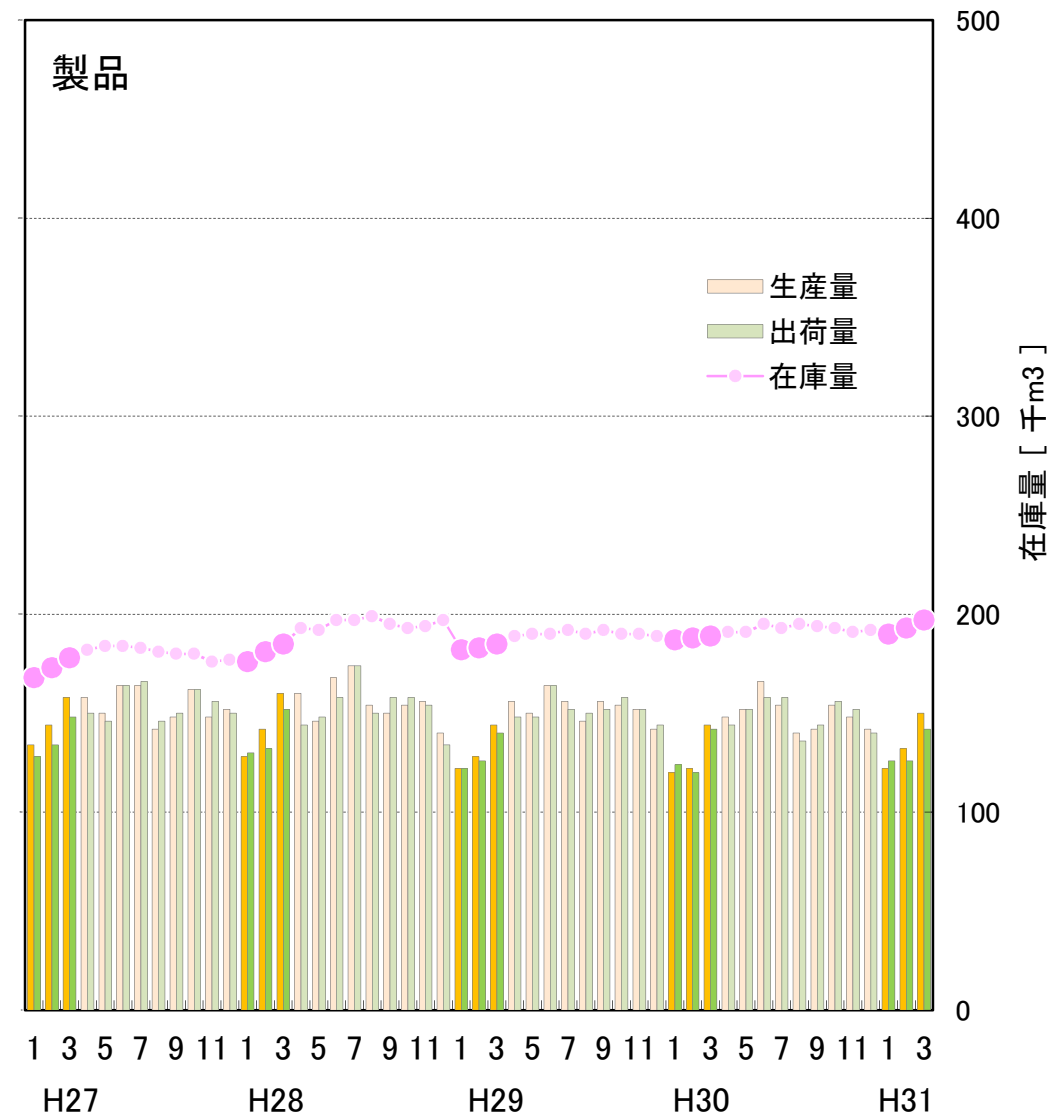
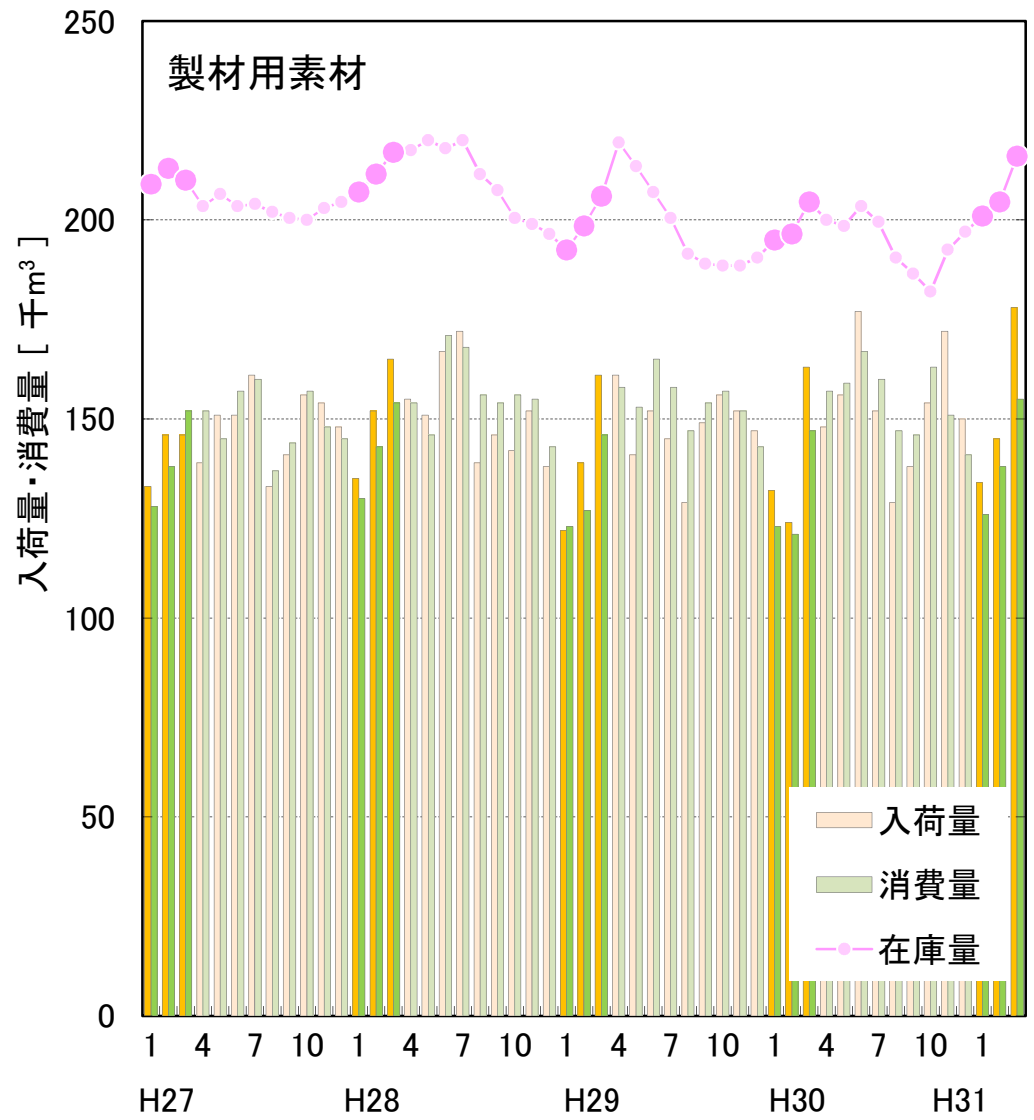
○ 関東主要都市の平成31年1～3月期の新設産業用建築物着工数は、昨年同期より39棟増加した。  
この期間の木造は25棟減少し、木造率は1%減少した。



出典：国土交通省「住宅着工統計」

# ■ 東北5県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成27年1月～31年3月）

○ 東北5県の製材用素材の平成31年1～3月の入荷量は昨年同期比+9%、消費量は+7%、在庫量は3月比+6%。  
 ○ 製材品の平成31年1～3月の生産量は昨年同期比+5%、出荷量は+2%、在庫量は3月比+4%。



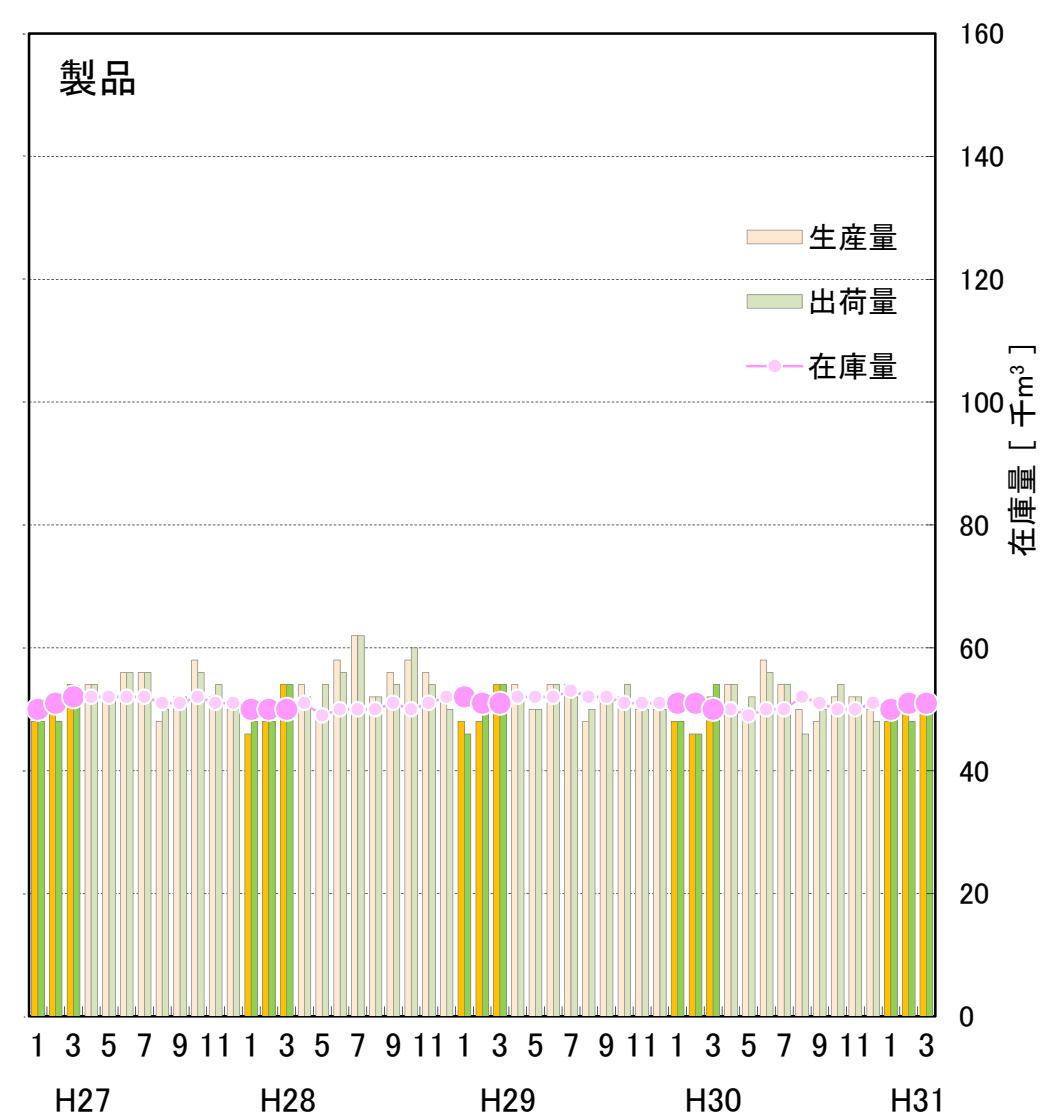
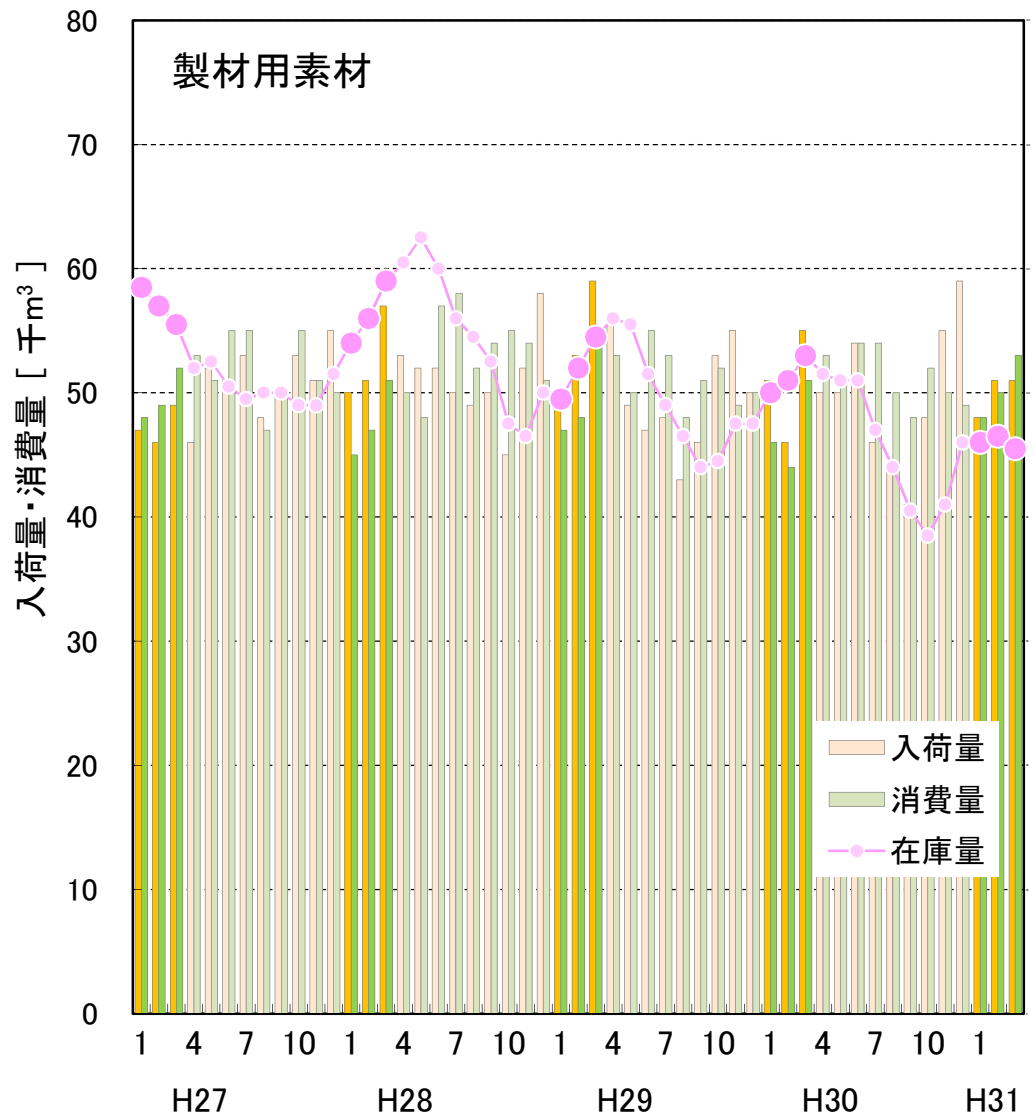
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。



# ■ 岩手県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成27年1月～31年3月）

○ 製材用素材の平成31年1～3月の入荷量は昨年同期比－1%、消費量は＋7%、在庫量は3月比－14%。  
 ○ 製材品の平成31年1～3月の生産量は昨年同期比＋1%、出荷量は±0%、在庫量は3月比＋2%。



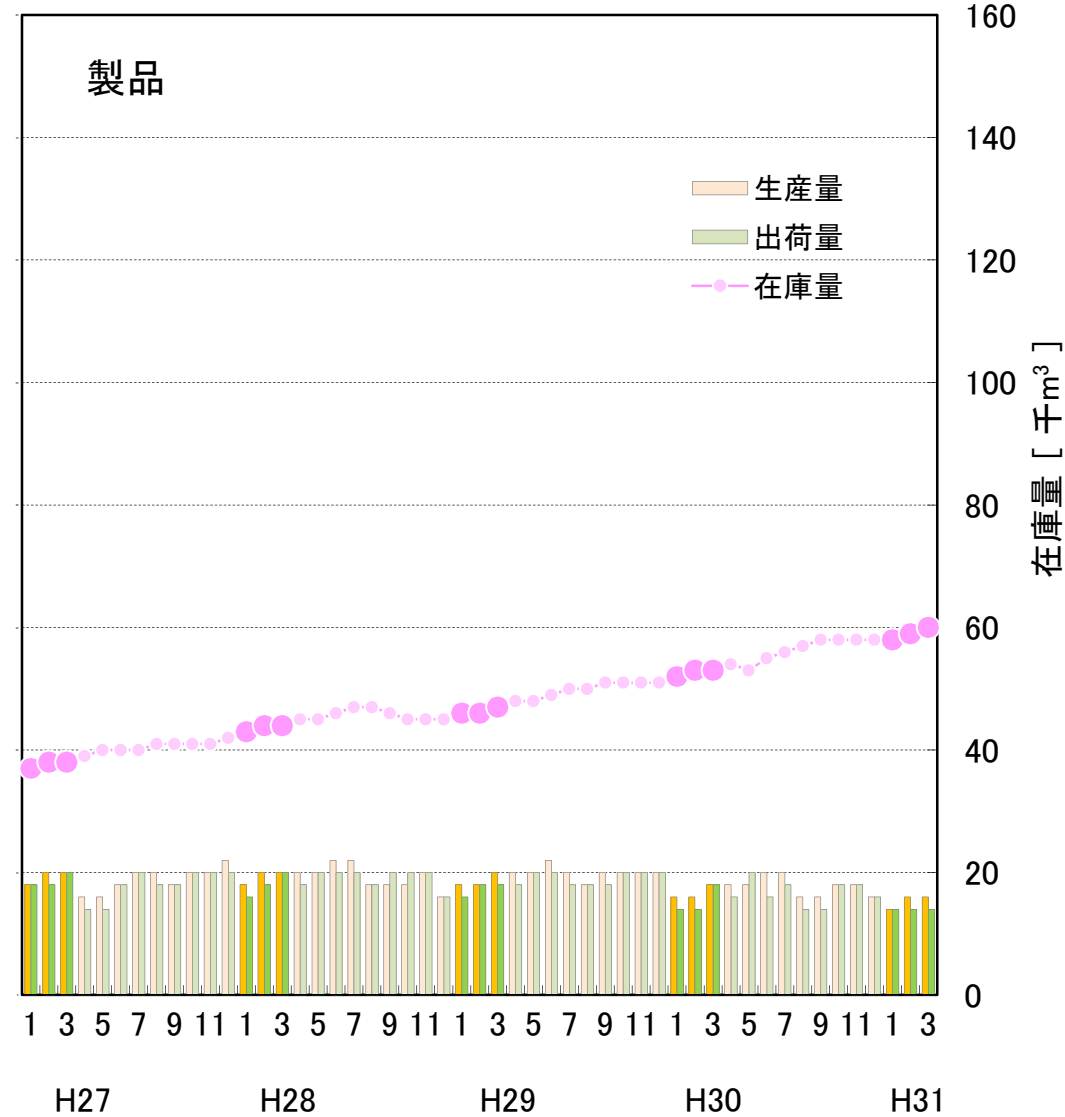
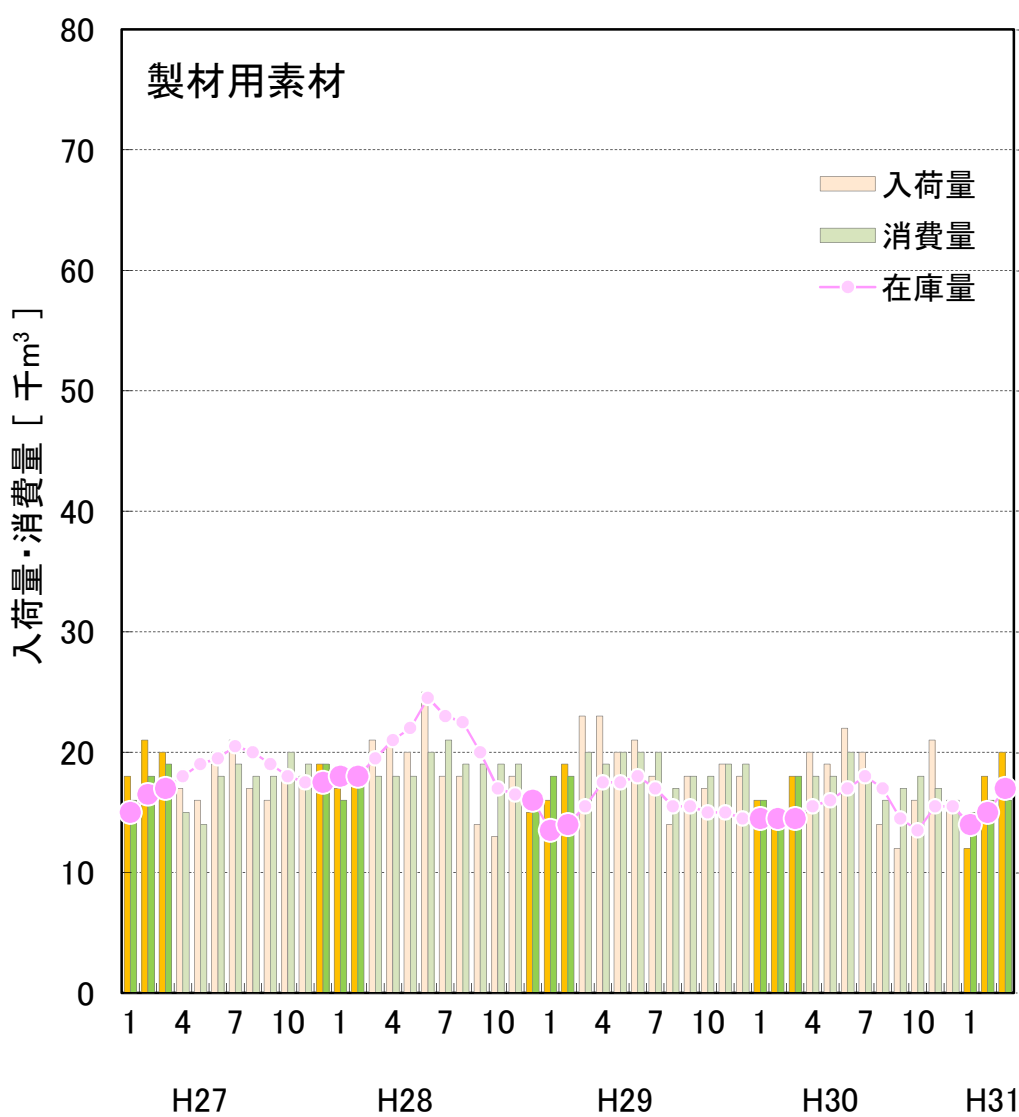
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。



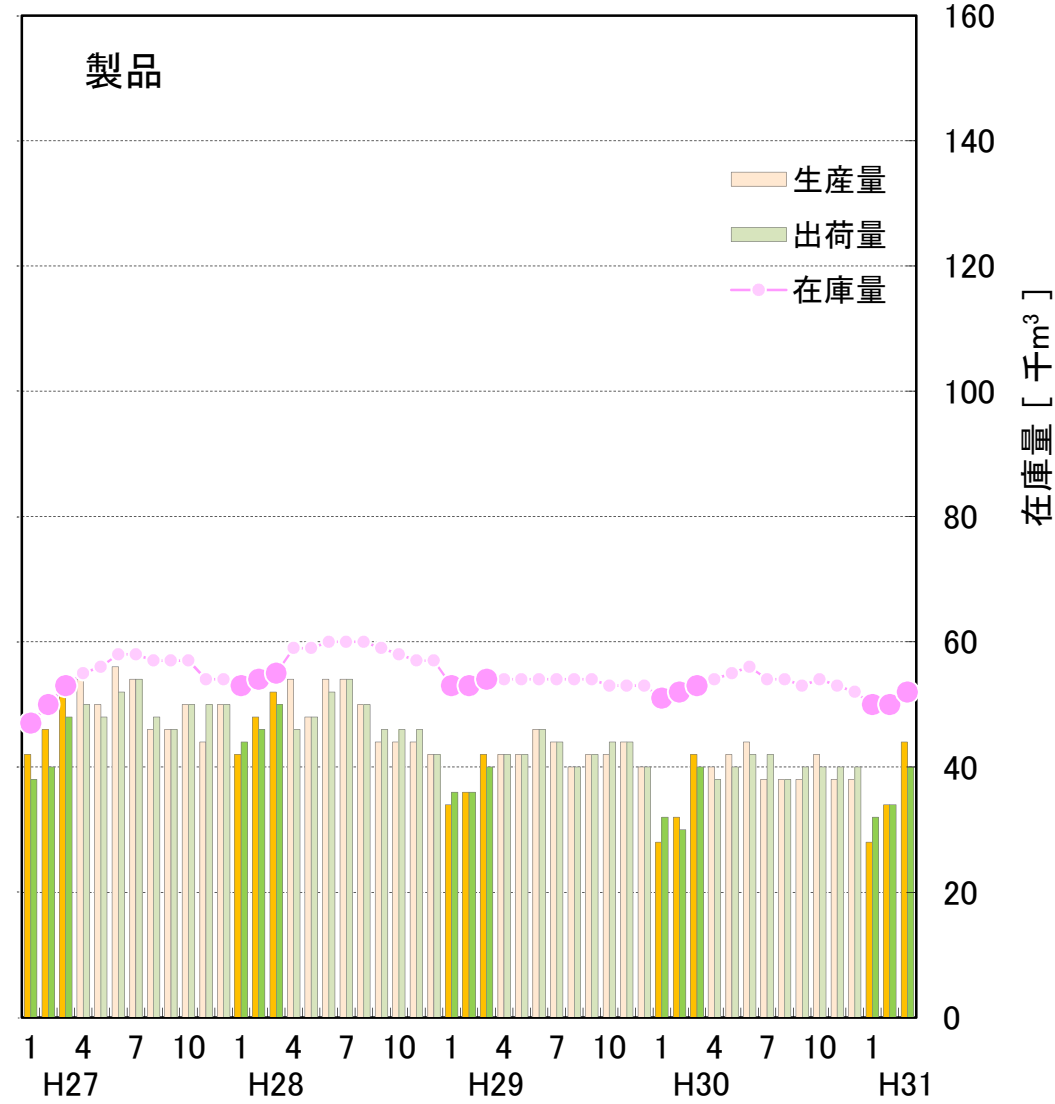
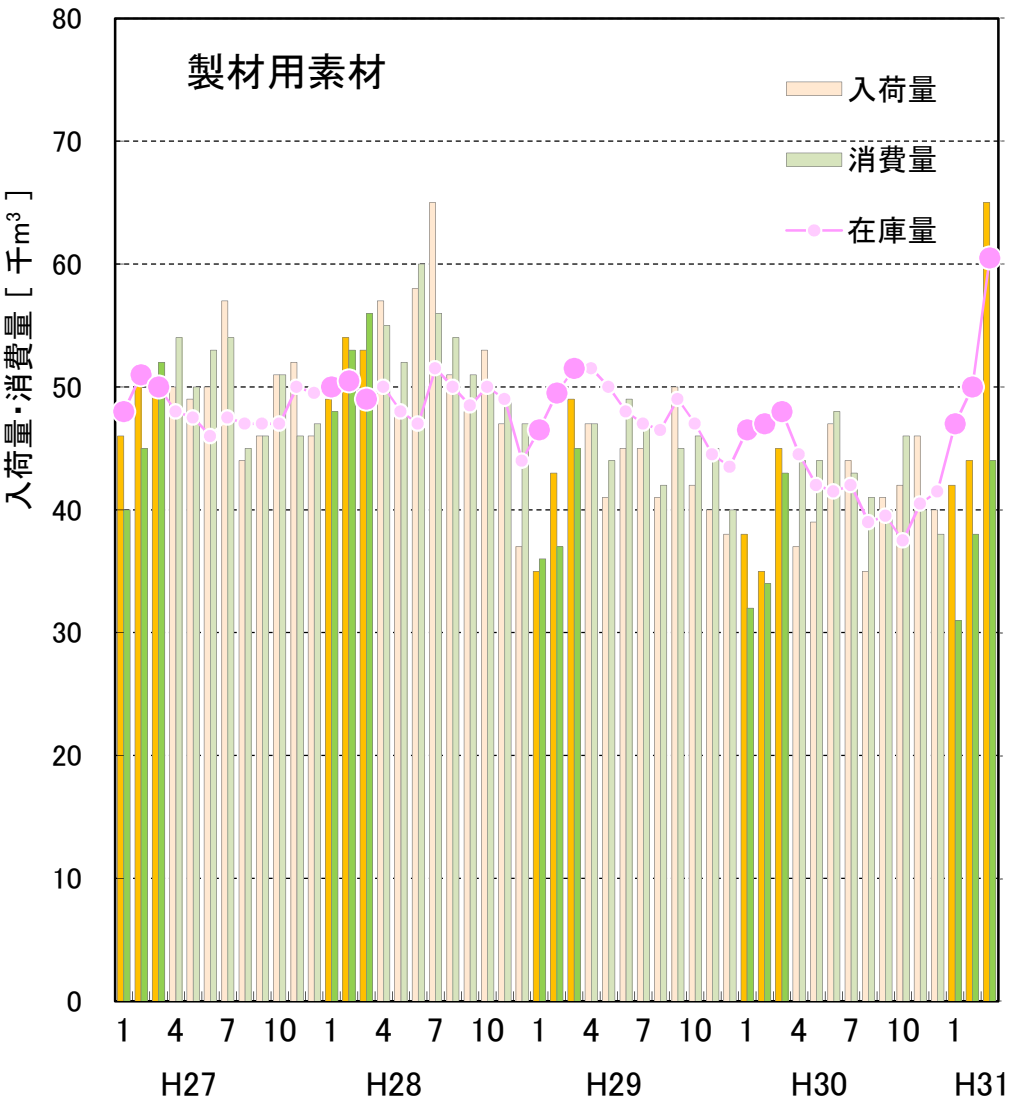
## ■ 宮城県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成27年1月～31年3月）

- 製材用素材の平成31年1～3月の入荷量は昨年同期比+2%、消費量は-4%、在庫量は3月比+17%。
- 製材品の平成31年1～3月の生産量は昨年同期比-8%、出荷量は-9%、在庫量は3月比+13%。



# ■ 秋田県の製材用素材・製材品の生産量等の推移（平成27年1月～31年3月）

○ 製材用素材の平成31年1～3月の入荷量は昨年同期比+28%、消費量は+4%、在庫量は3月比+26%。  
 ○ 製材品の平成31年1～3月の生産量は昨年同期比+4%、出荷量は+4%、在庫量は3月比-2%。



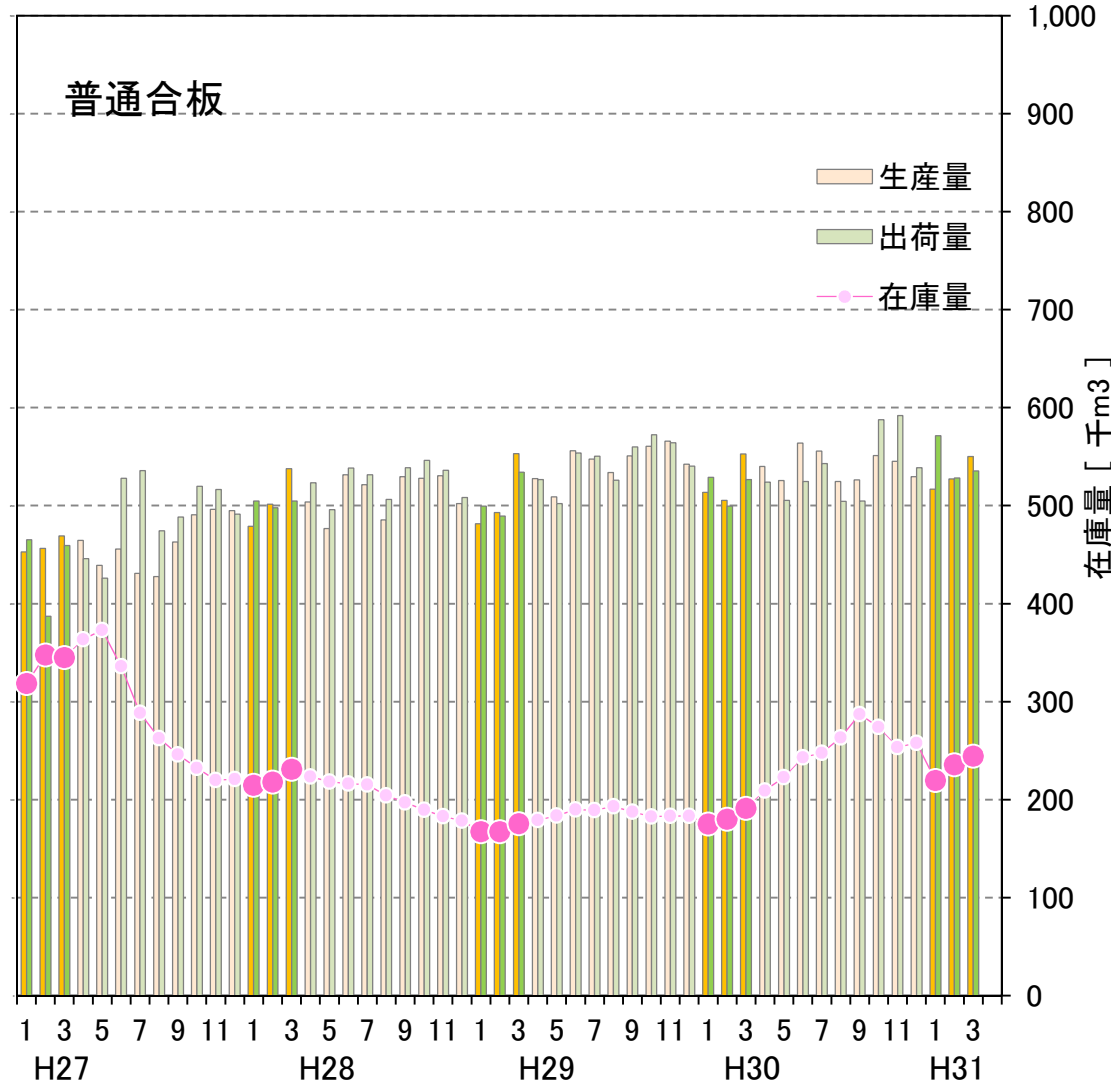
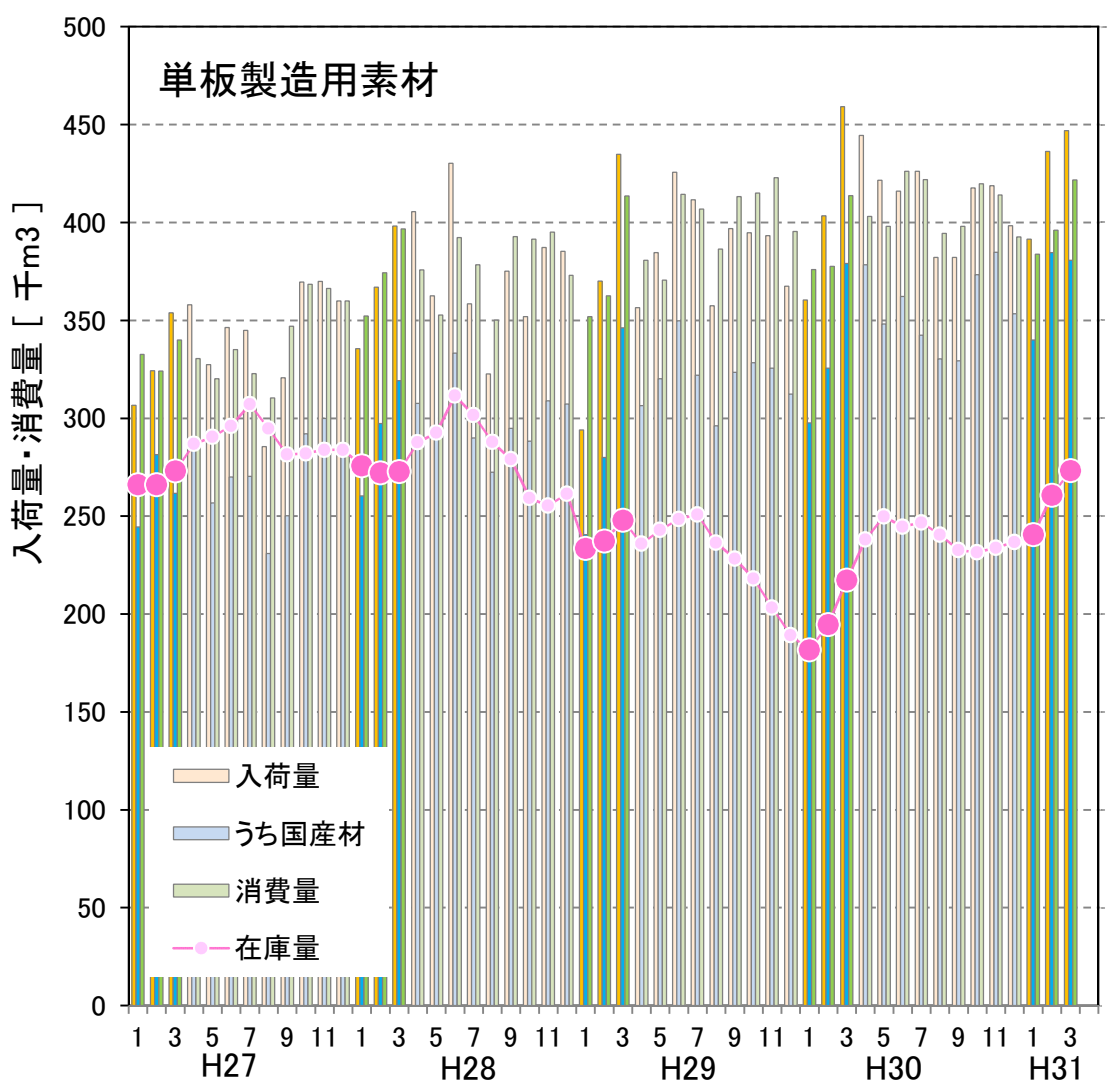
出典：農林水産省「木材需給報告書」「製材統計」

※ 国産材と外材の合計値である。



# ■ 全国の単板製造用素材・普通合板の生産量等の推移（平成27年1月～31年3月）

- 単板製造用素材の平成31年1～3月期の入荷量は昨年同期比+4%、うち国産材は+10%、消費量は+3%、在庫量は3月比+26%。
- 普通合板の平成31年1～3月期の生産量は昨年同期比+1%、出荷量は+5%、在庫量については3月比+28%。

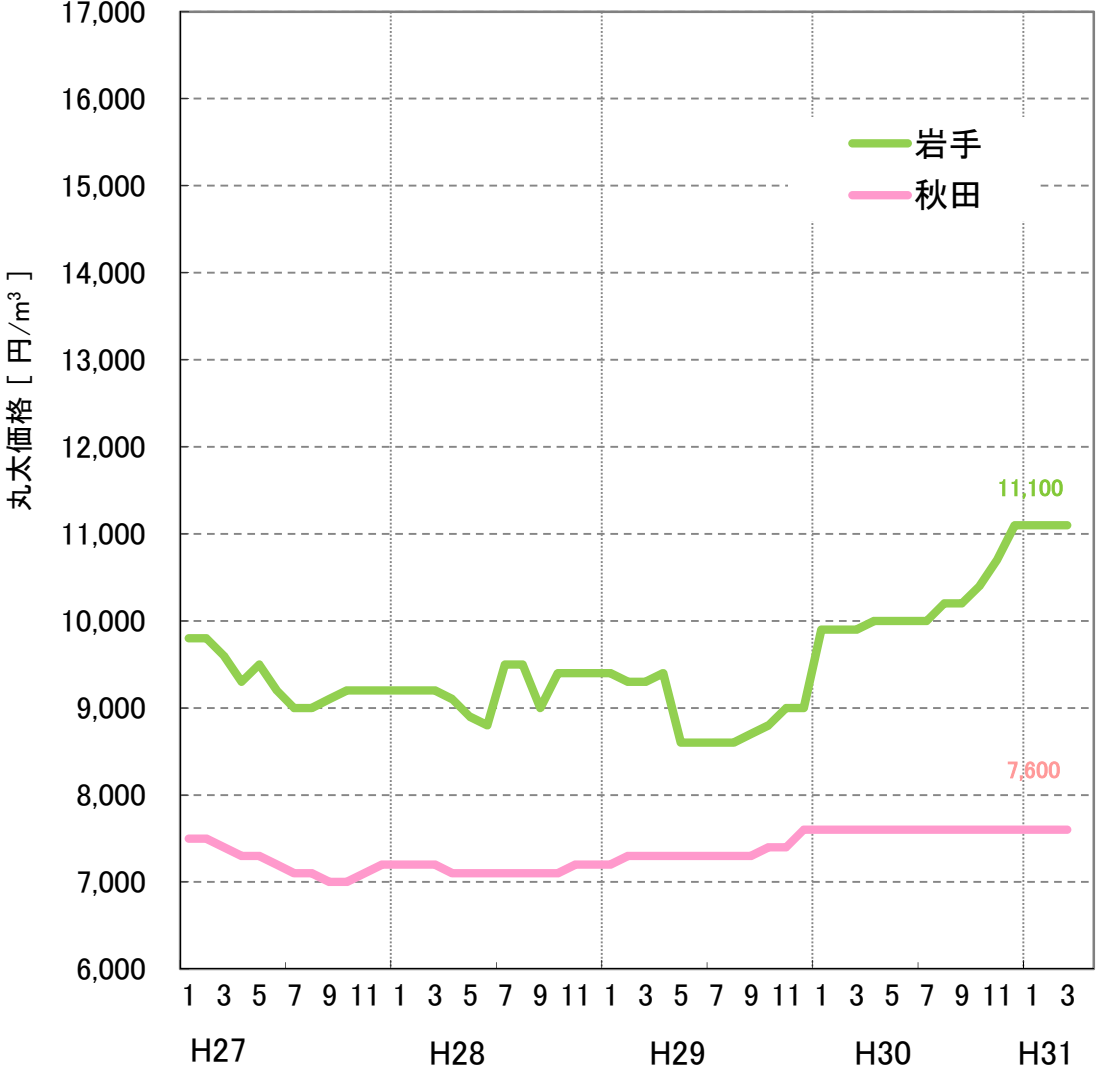


出典：農林水産省「合板統計」

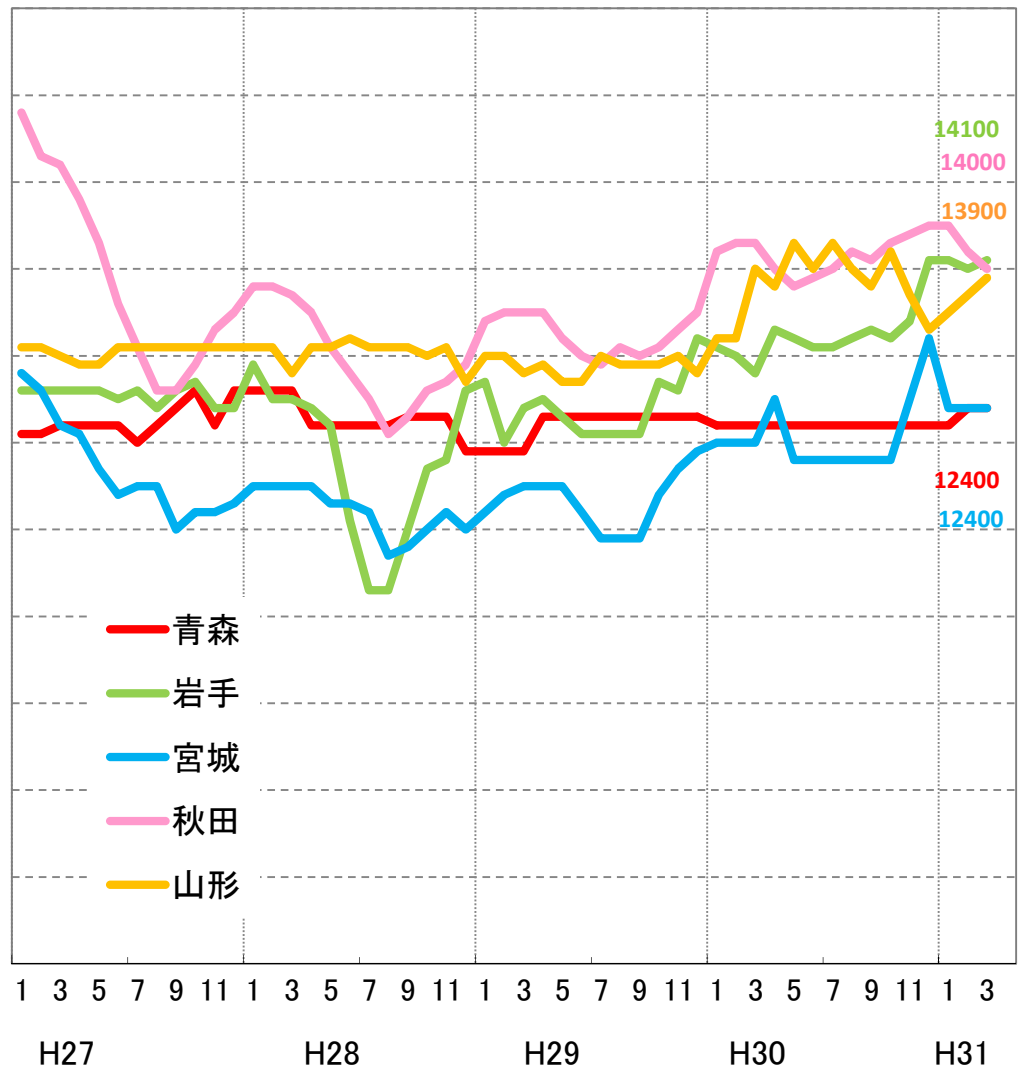
# ■ すぎ丸太価格の推移 (平成27年1月～平成31年3月)

○ すぎ小丸太価格は、岩手・秋田とも保合。  
 ○ すぎ中丸太価格は、山形が強含み、秋田が弱含み、その他の県は概ね保合。

すぎ小丸太 3.65～4.00m (8～13cm)



すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



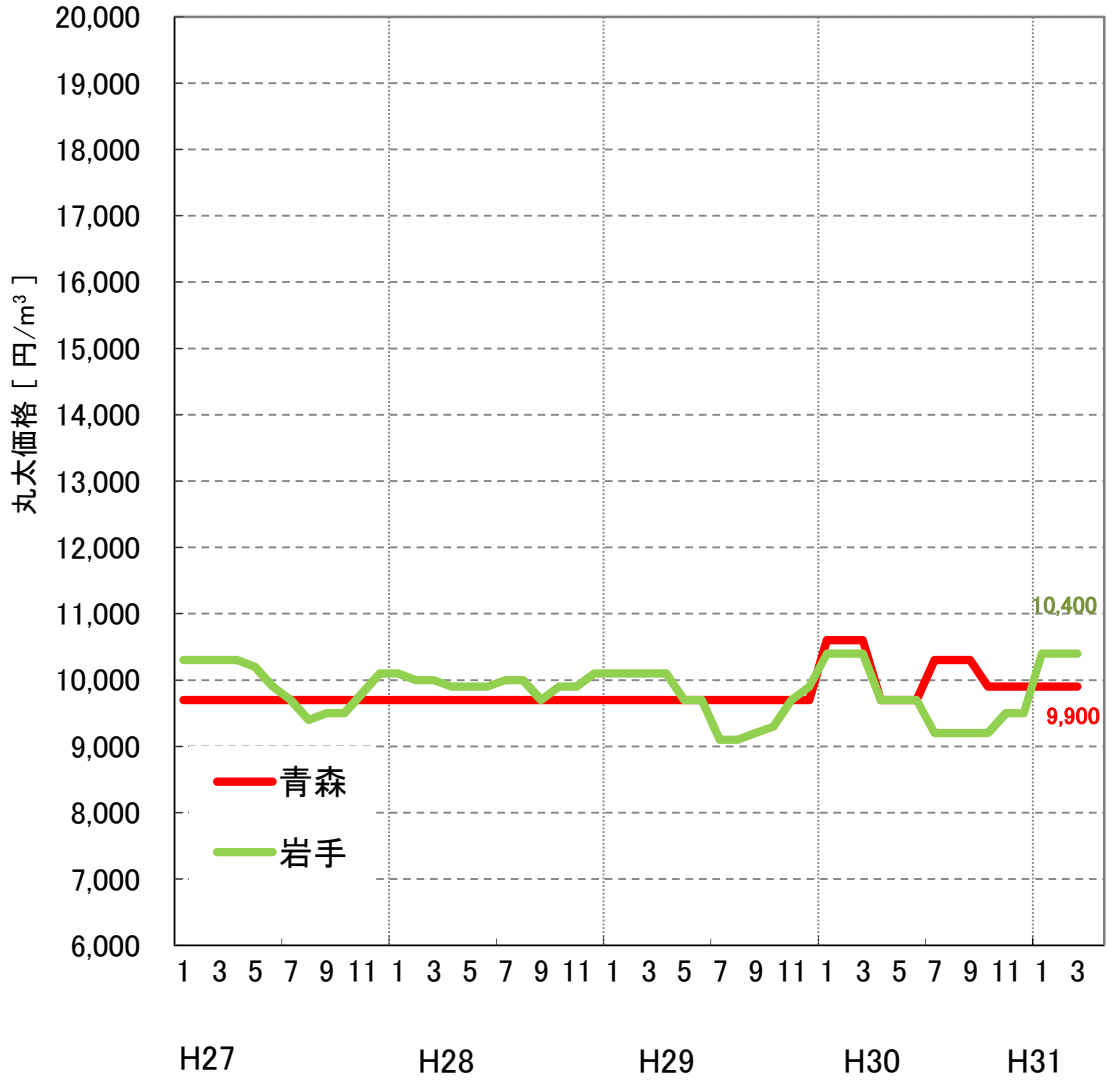
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格

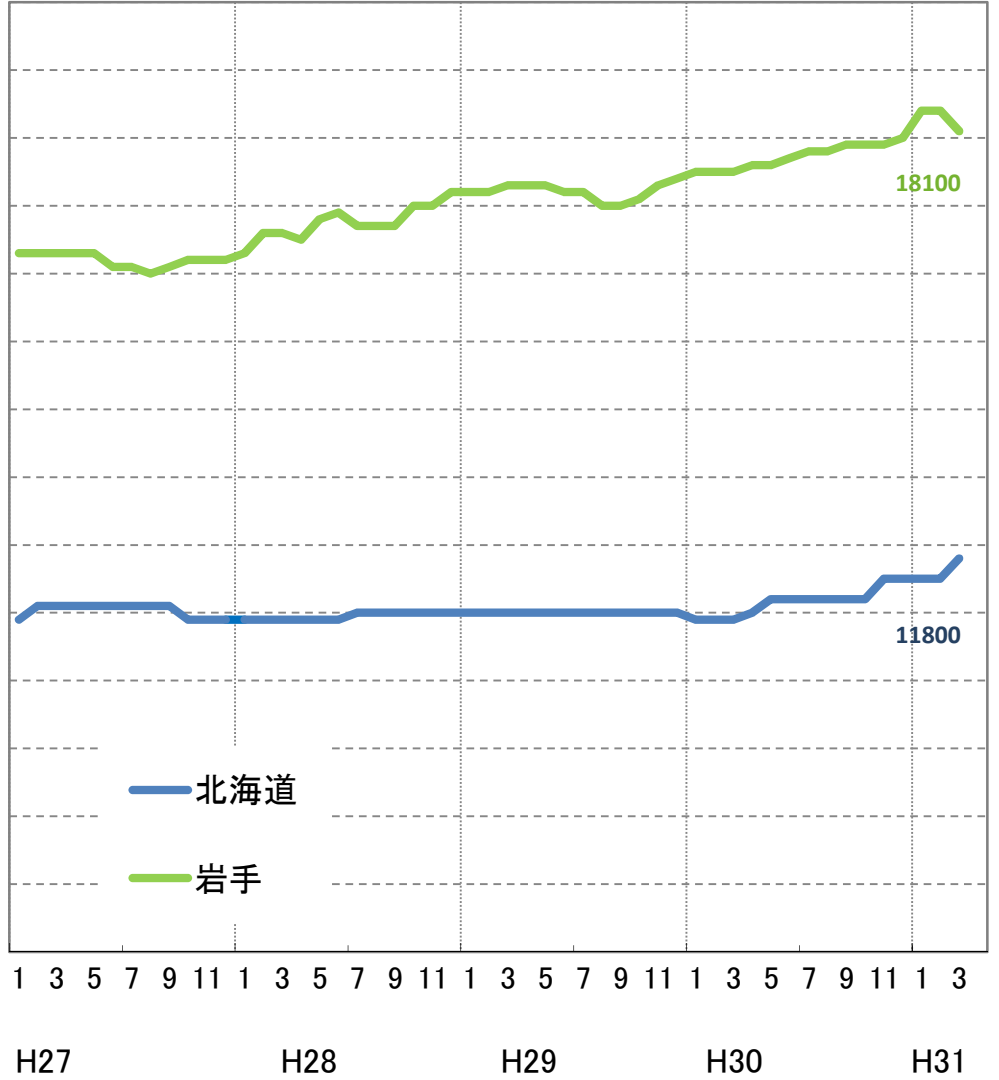
# ■ まつ・からまつ丸太価格の推移 (平成27年1月～平成31年3月)

○ まつ中丸太価格は、青森・岩手とも保合。  
 ○ からまつ丸太価格は、岩手が弱含み。北海道との価格差は6,300円。

### まつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



### からまつ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



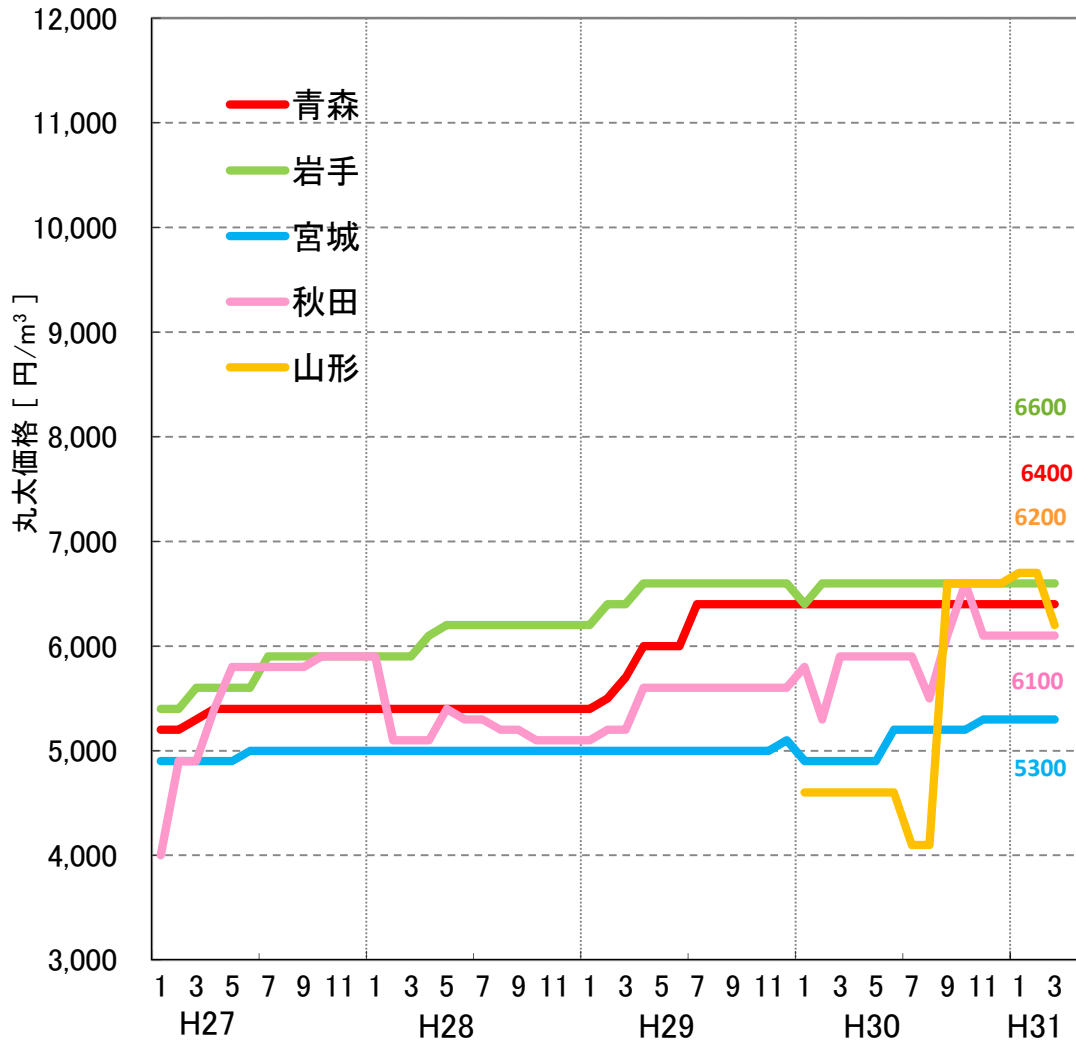
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格

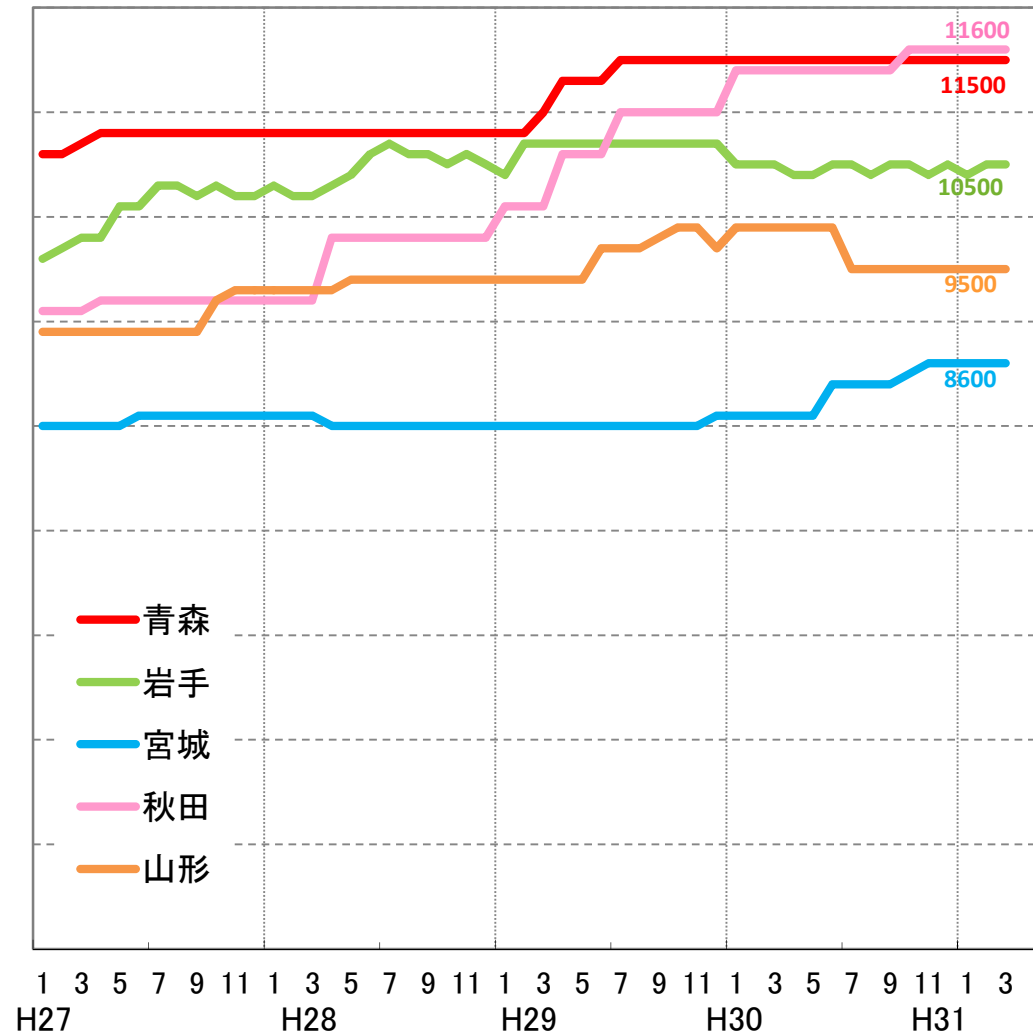
# ■チップ用丸太価格の推移 (平成27年1月～平成31年3月)

- 針葉樹丸太は、山形で弱含み、その他は保合。
- 広葉樹丸太は保合。

## 針葉樹材



## 広葉樹材

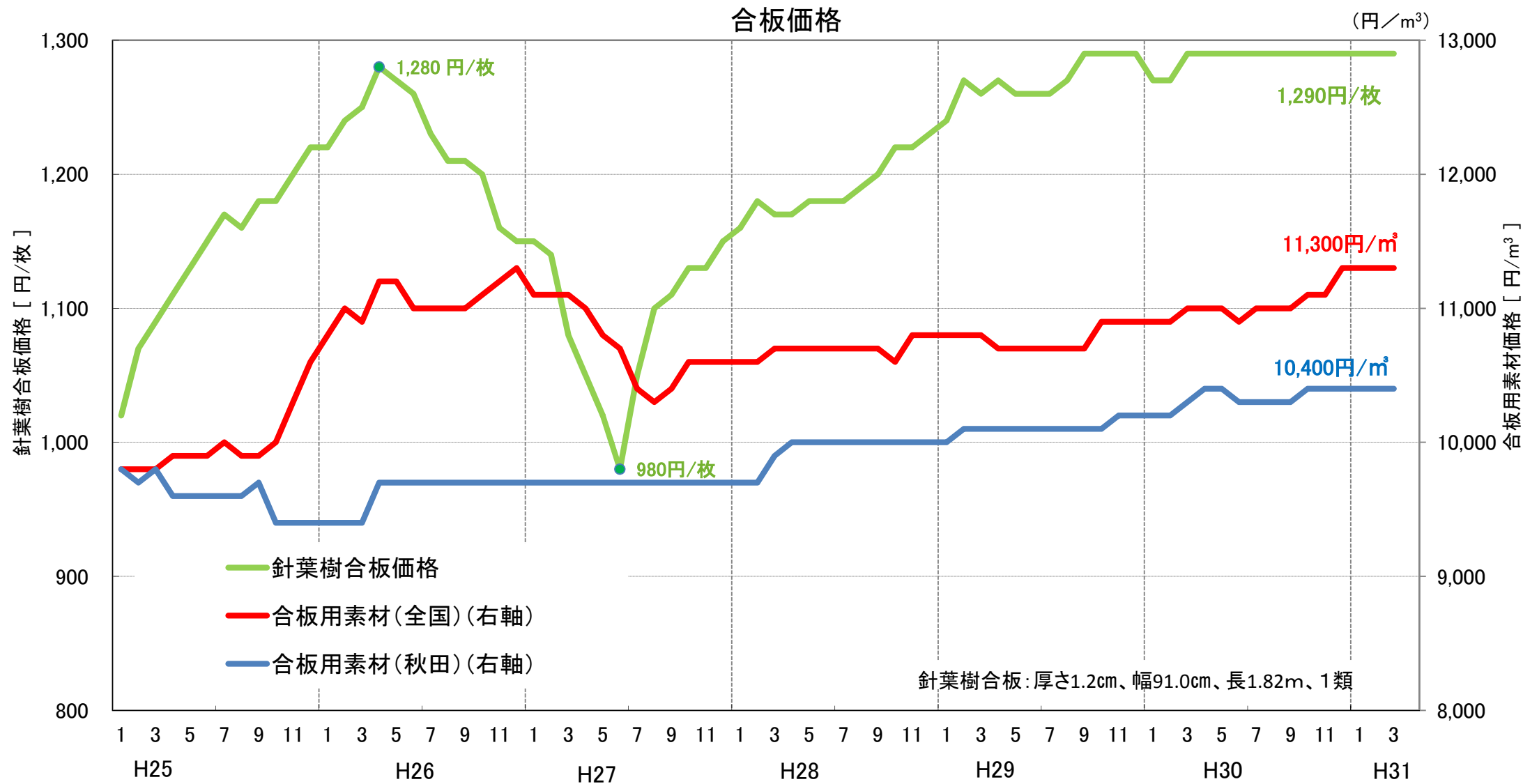


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」

※ 価格は工場着価格

# 針葉樹合板及び合板用素材価格の推移 (平成25年1月～平成31年3月)

- 針葉樹合板価格は、1,290円/枚。
- 合板用素材価格は、大きな変化はなく概ね保合で推移。全国との価格差は900円。



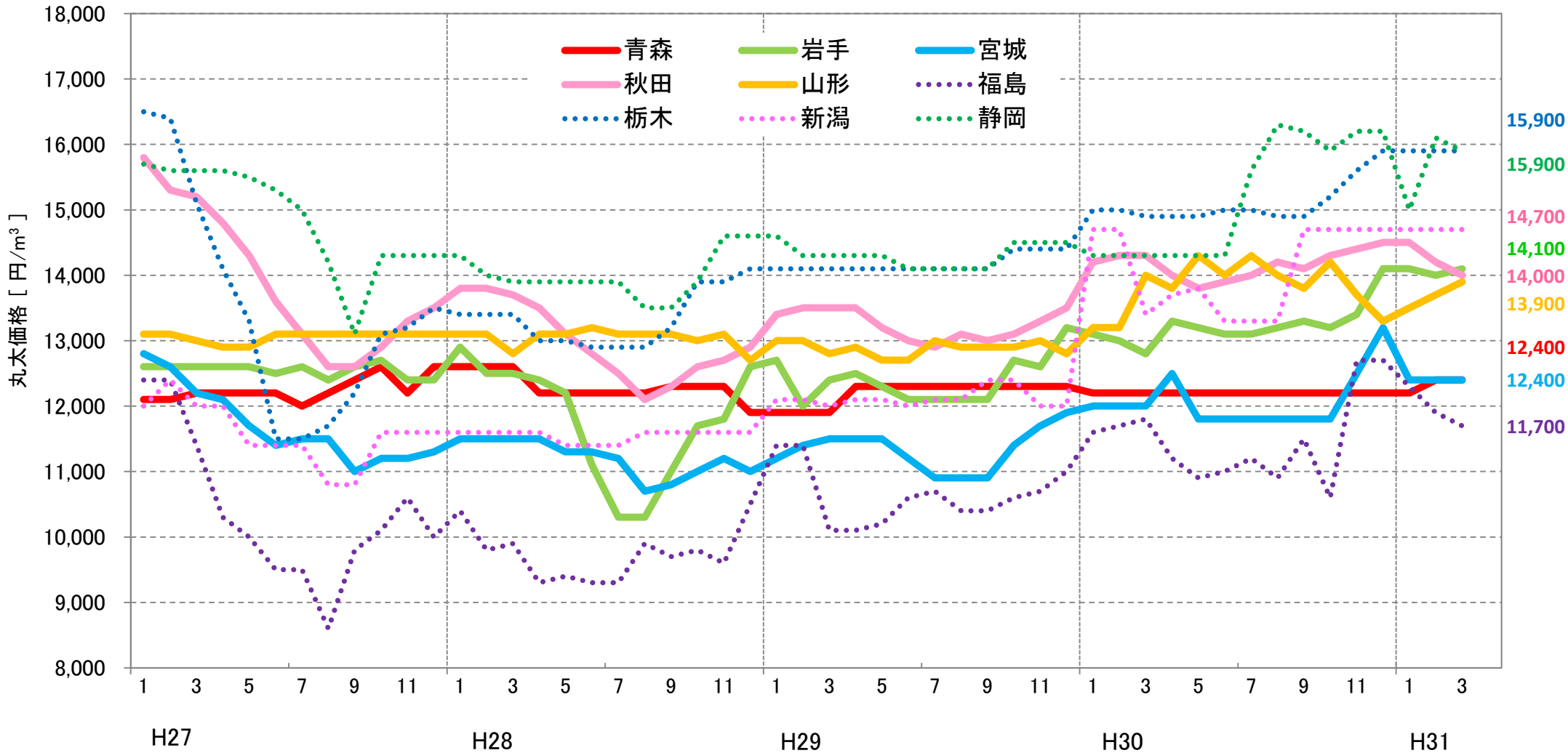
出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」  
 ※ 針葉樹合板価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。合板用素材価格は、合単板工場着購入価格である。



# ■ 関東地方との木材価格の比較 (平成27年1月～平成31年3月)

- 東北5県では山形が強含み、秋田が弱含み、その他の県は概ね保合。
- 福島は弱含み、その他の県は概ね保合。

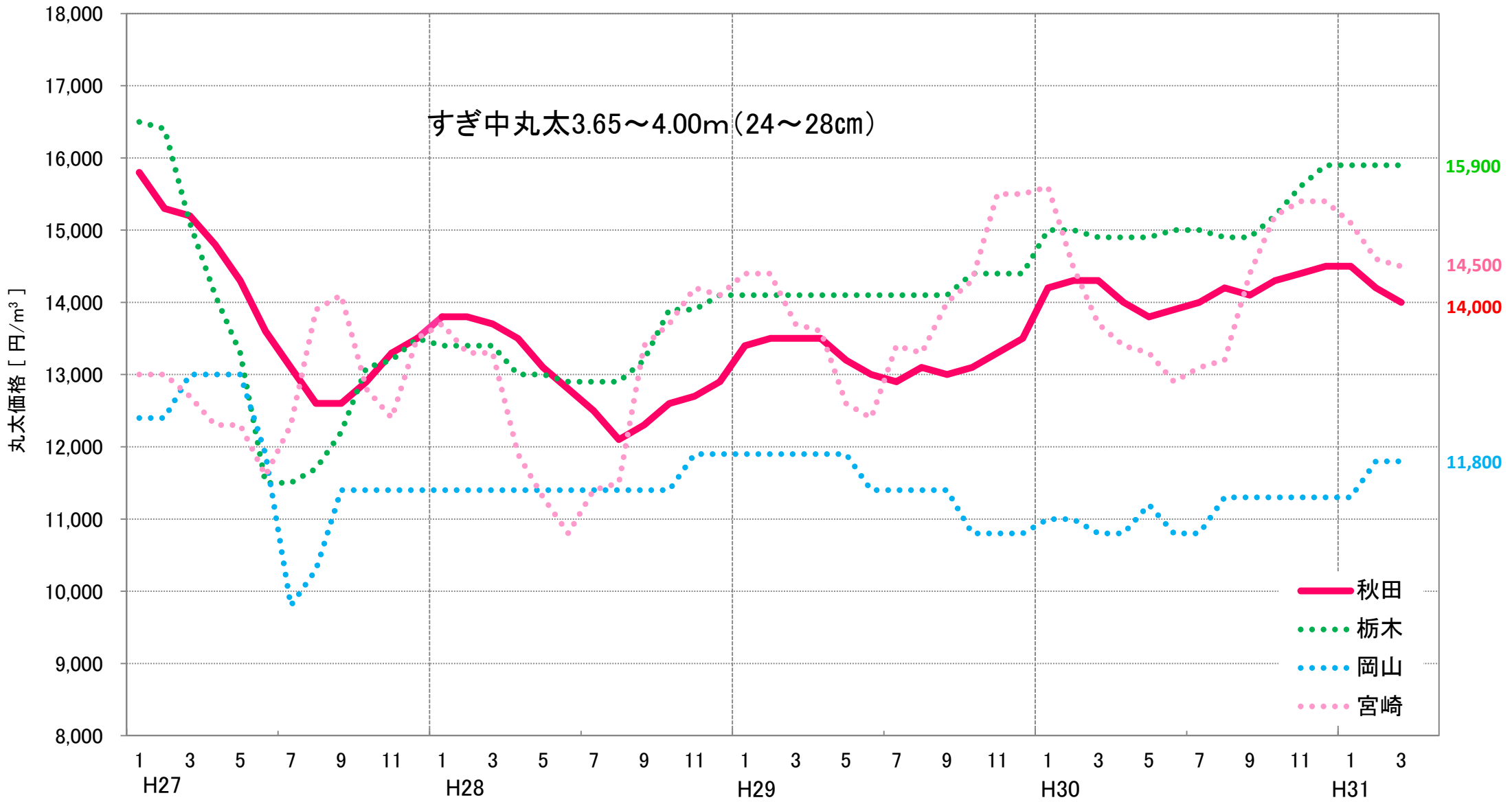
すぎ中丸太 3.65～4.00m (24～28cm)



出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」  
 ※ 工場着価格。

# ■ 関東、関西、九州地方との木材価格の比較 (平成27年1月～平成31年3月)

○ 栃木、岡山は保合。秋田、宮崎は弱含み。

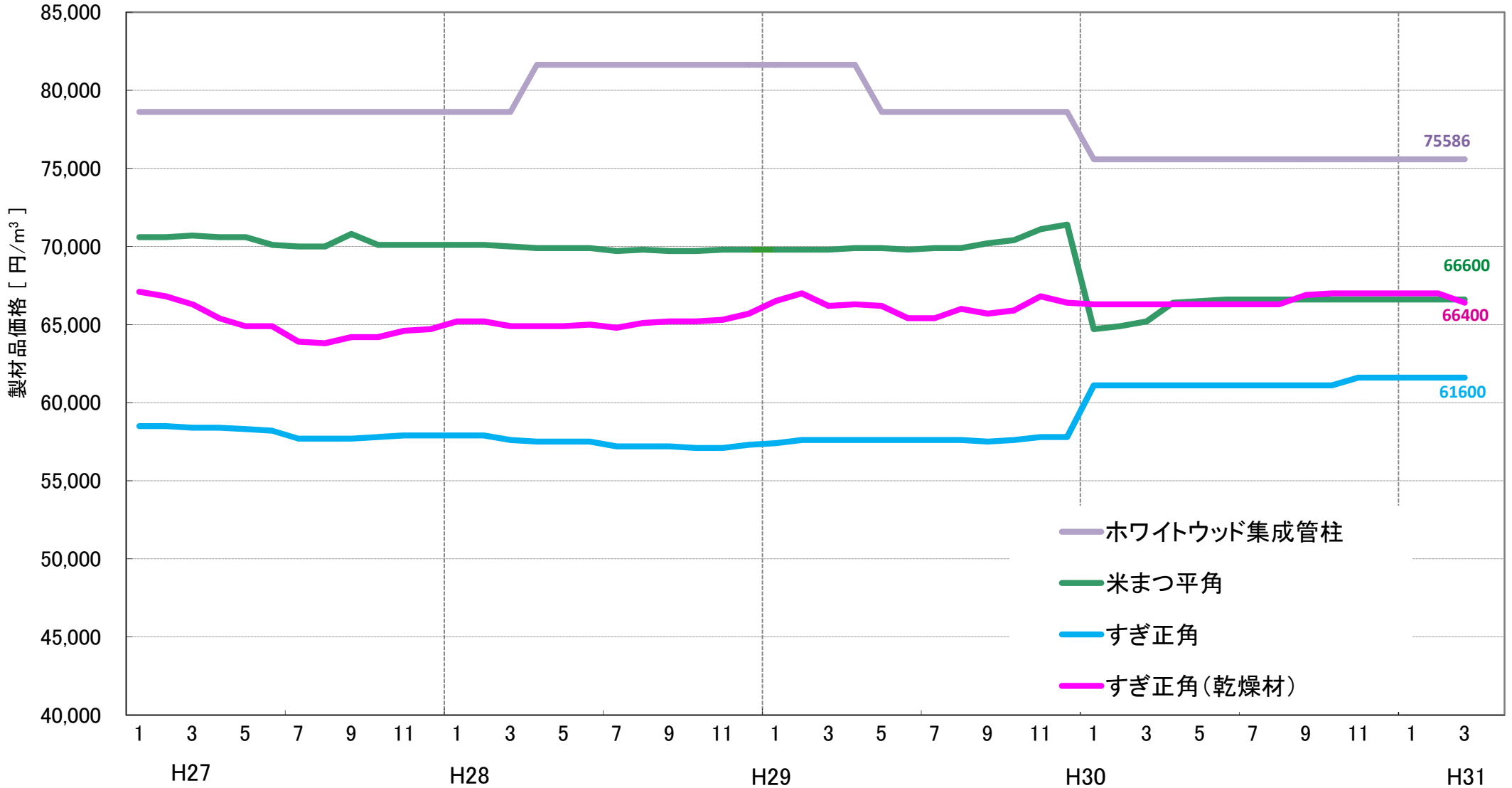


出典: 農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」  
 ※ 工場着価格。

# ■ 全国の製材品主要品目価格の推移 (平成27年1月～平成31年1月)

○ 各製品とも保合。

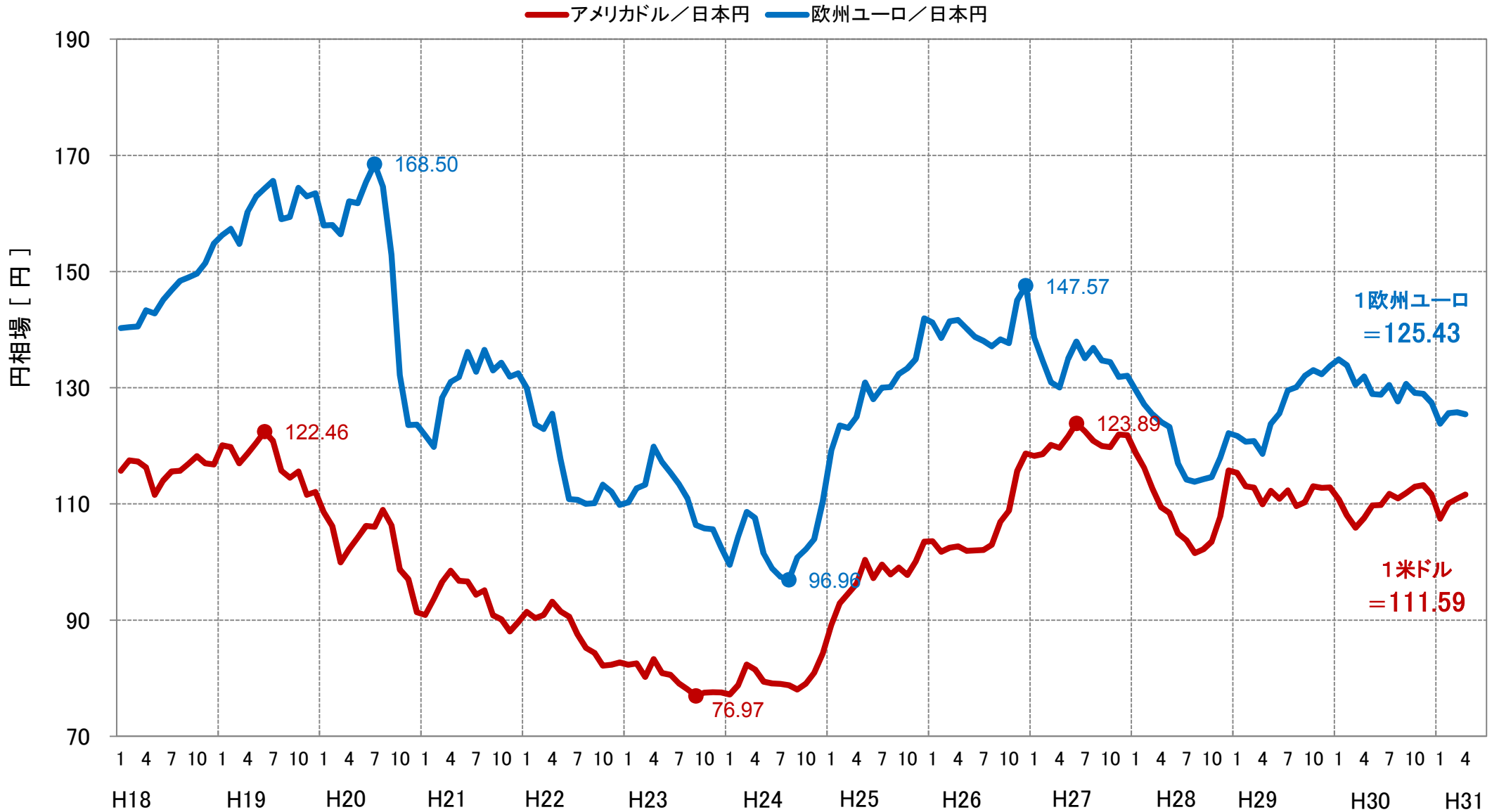
製材品価格



出典：農林水産省「木材需給報告書」「木材価格」  
 ※ 価格は、木材市売市場、木材センター及び木材卸売業者における小売業者への店頭渡し価格。

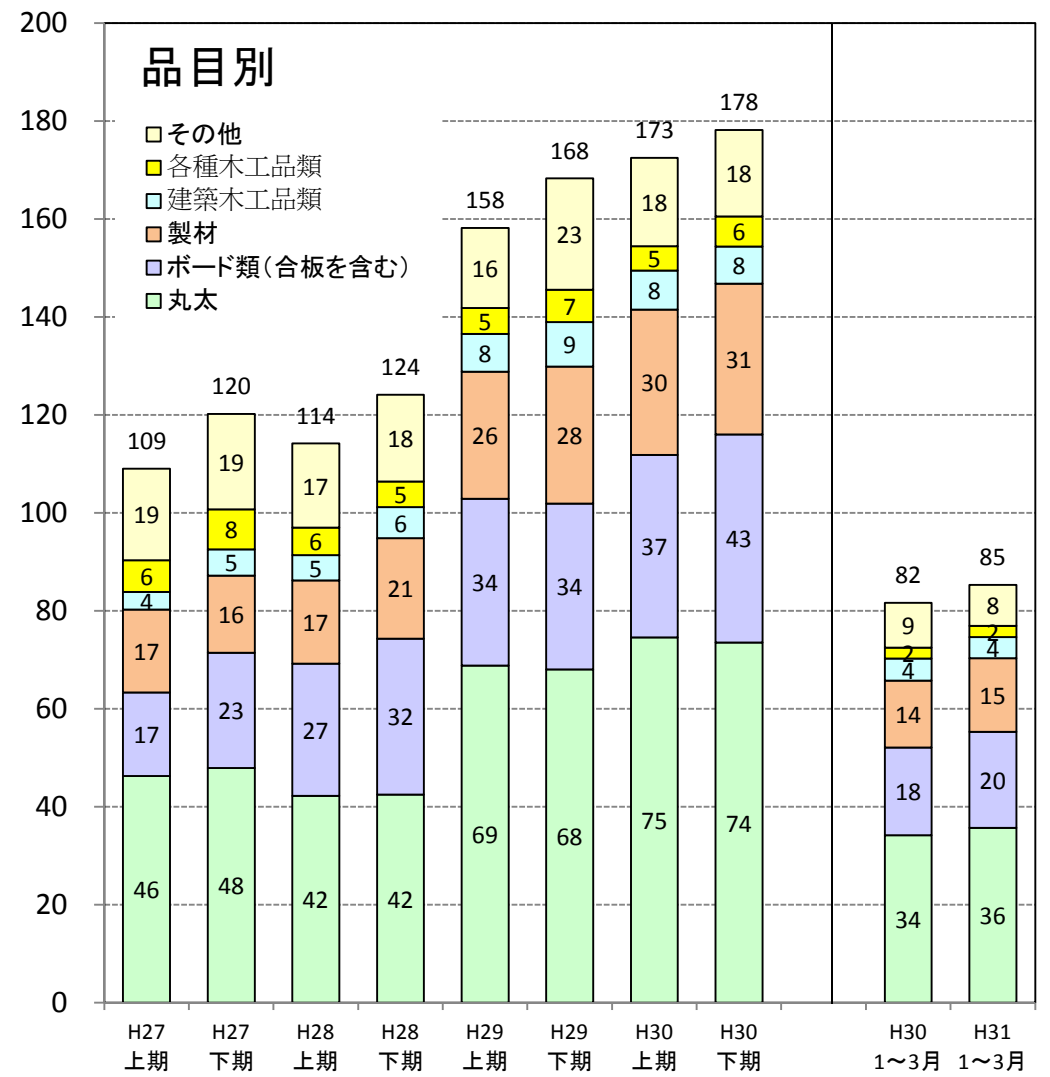
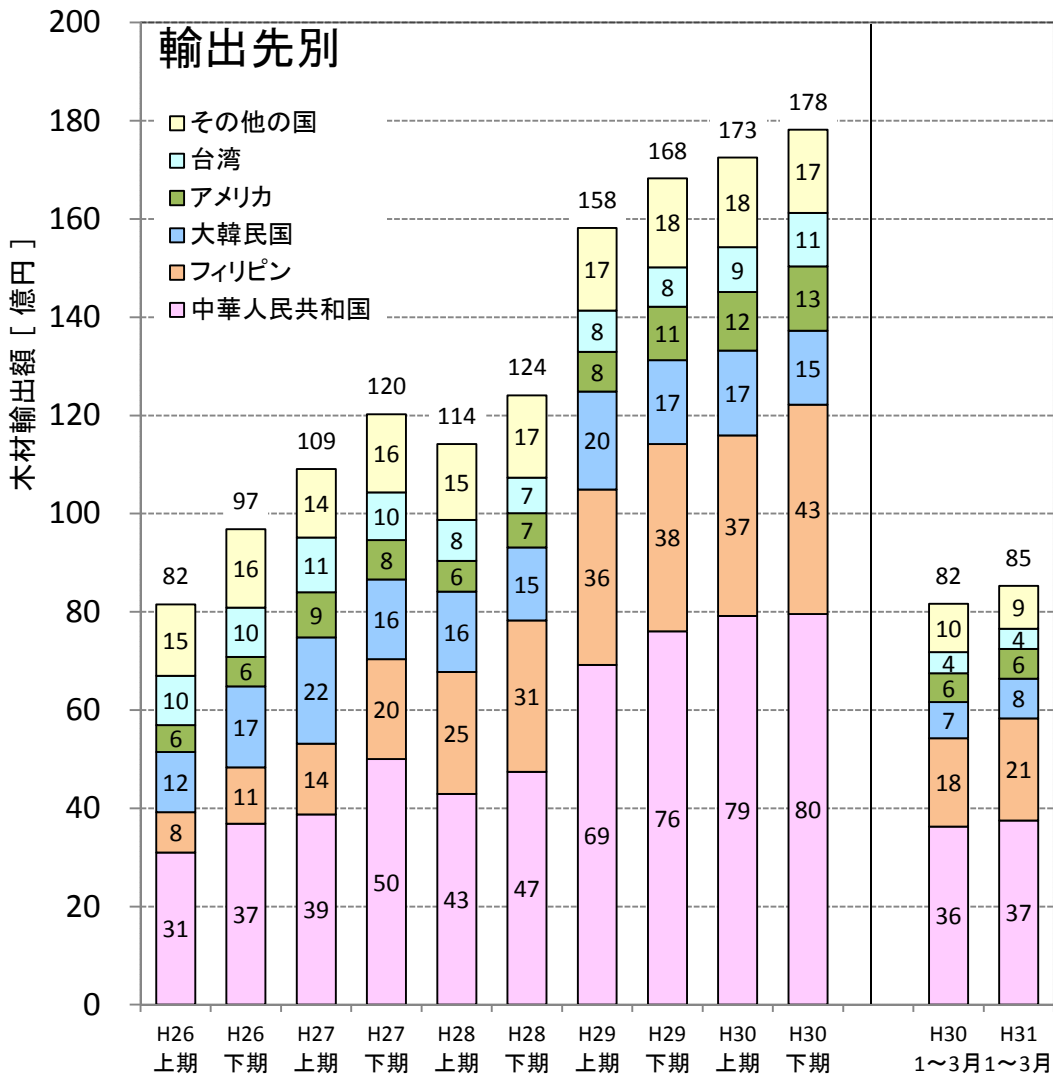
## 為替レートの推移 (平成18年1月～平成31年4月)

- 米ドルは、5月24日現在109円台。
- 欧州ユーロは、5月24日現在122円台。



# 輸出先別及び品目別の木材輸出額の推移（全国）

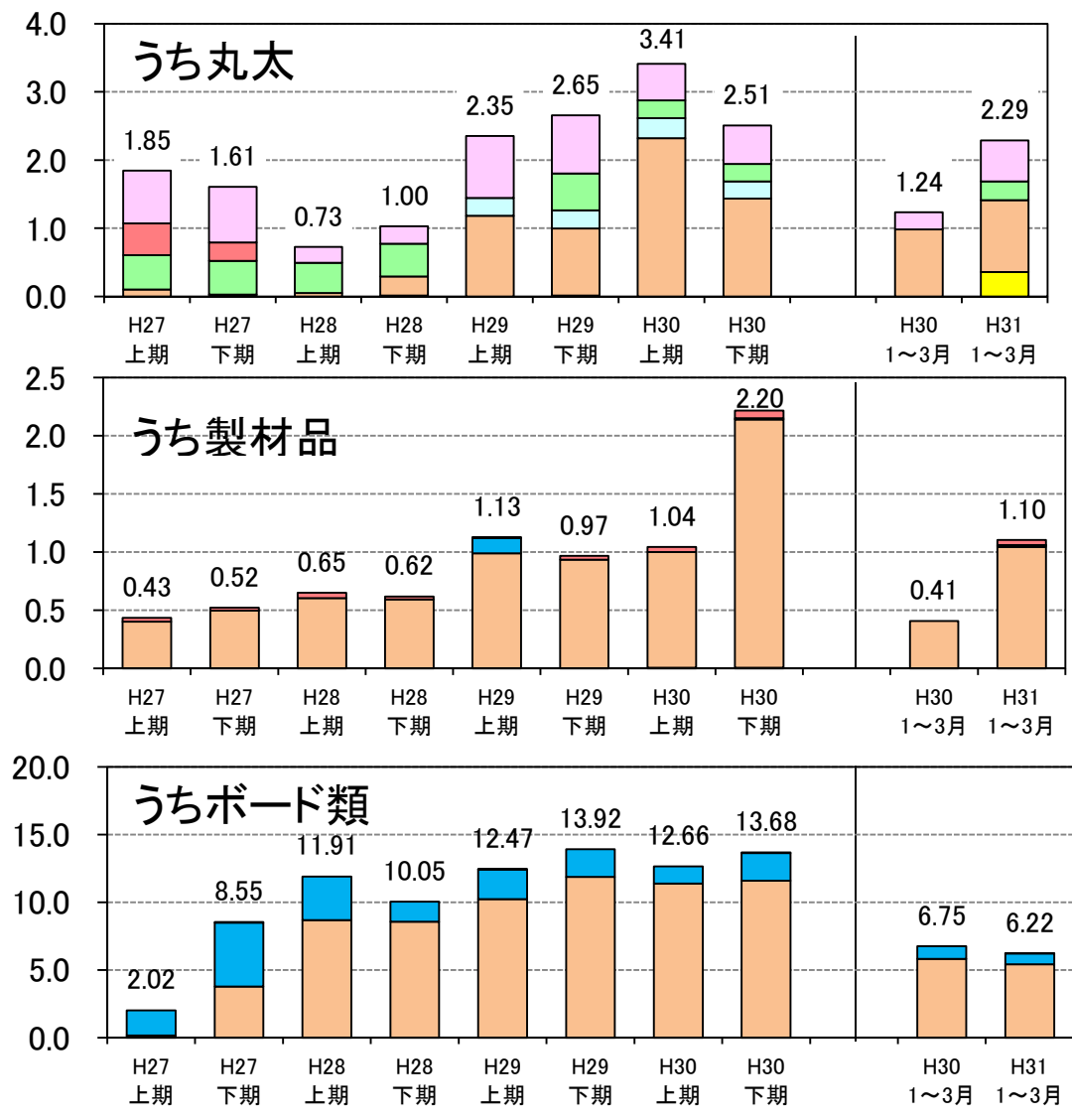
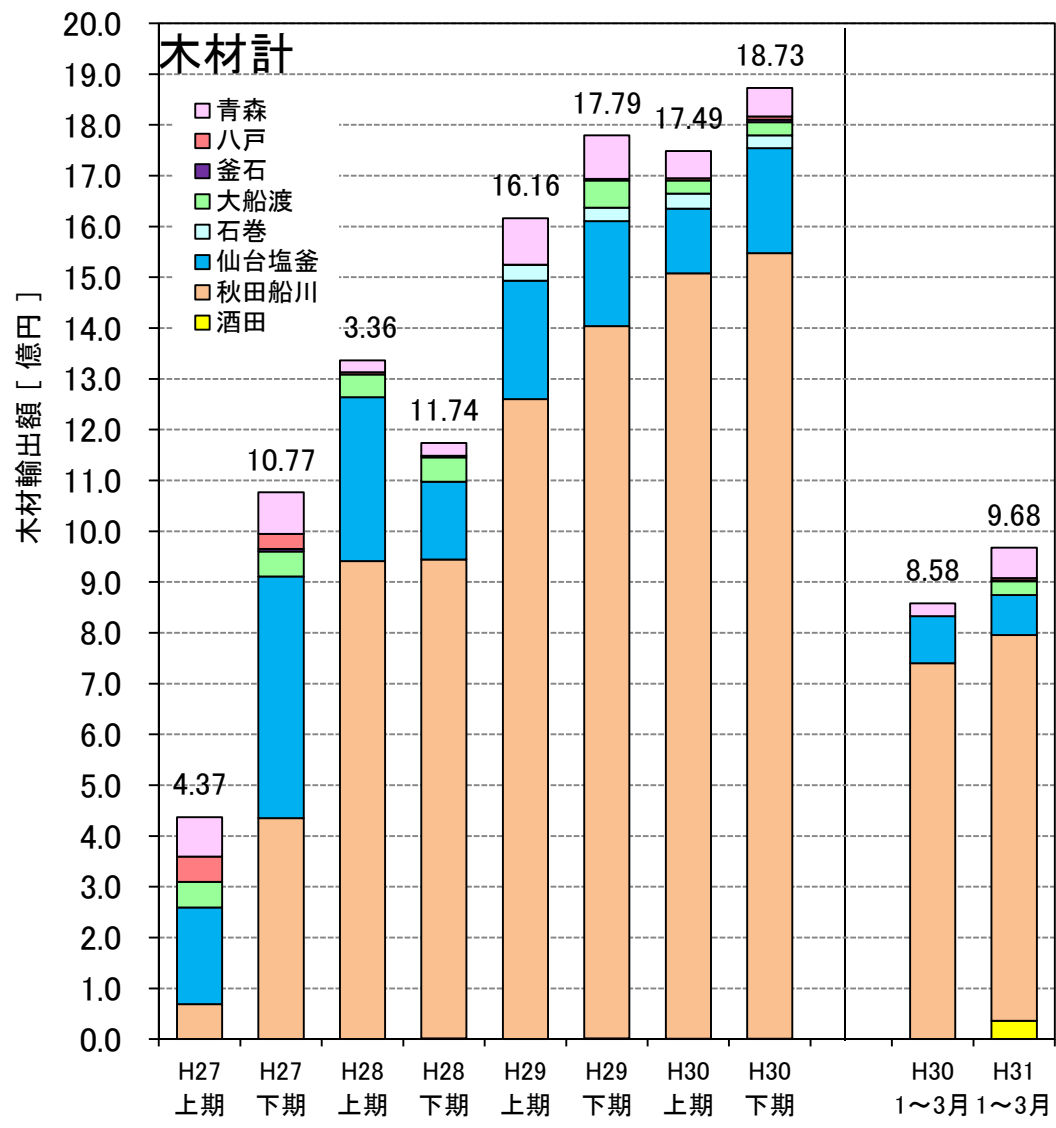
- 木材輸出額は増加傾向にあり、31年1月～3月期と昨年同期を比較すると+4%となっている。
- 31年1月～3月期の主要相手国は、中国、フィリピン、韓国、アメリカ、台湾となっている。
- 品目別輸出額では、丸太が最も高く、次いでボード類、製材となっている。
- 31年1月～3月期と昨年同期を比較すると、丸太が+5%、製材が+10%、ボード類が+9%となっている。



出典：財務省「貿易統計」

# ■ 東北5県における木材輸出額の推移

○ 31年1月～3月期と昨年同期を比較すると+13%増加。  
 ○ 31年1月～3月期と昨年同期を品目別比較すると、丸太が+85%、製材が+170%、ボード類が-8%となっている。

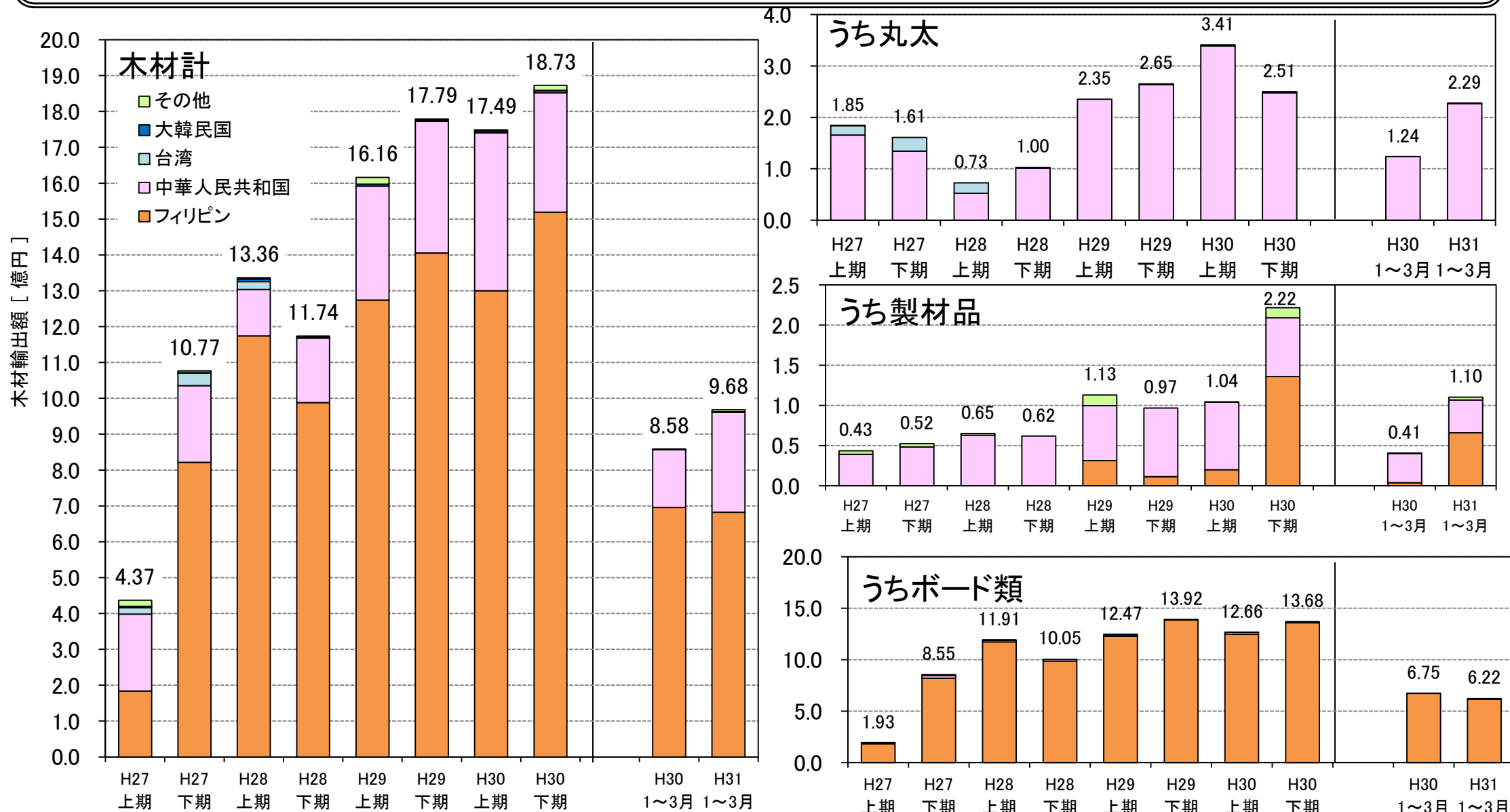


出典:財務省「貿易統計」

# ■ 東北5県における輸出先別の木材輸出額の推移

○ 31年1月～3月期の主要相手国は、フィリピンが最も高く、次いで中国となっている。

○ 品目別では、丸太は中国が最も高く、製材、ボード類はフィリピンが最も高くなっている。



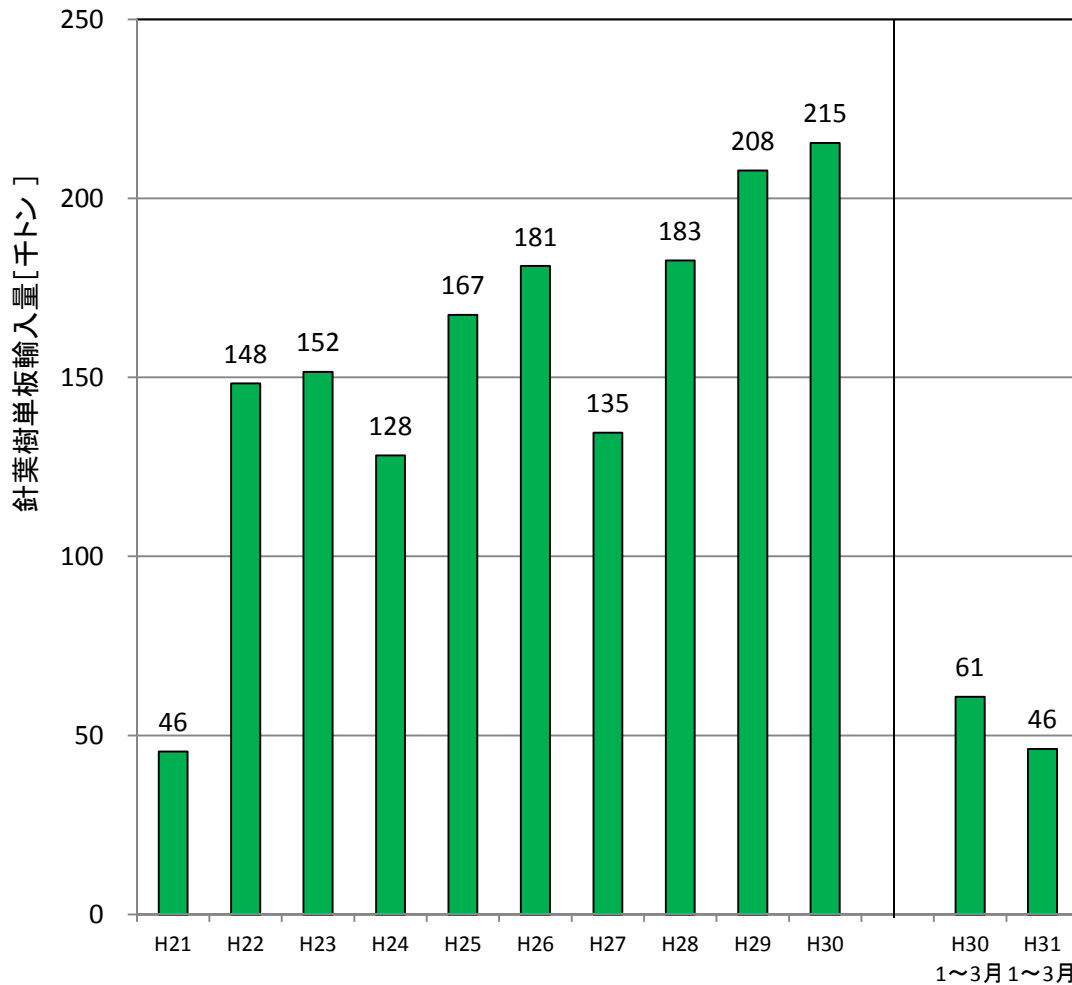
出典:財務省「貿易統計」

## ロシアからの針葉樹単板の輸入量の推移

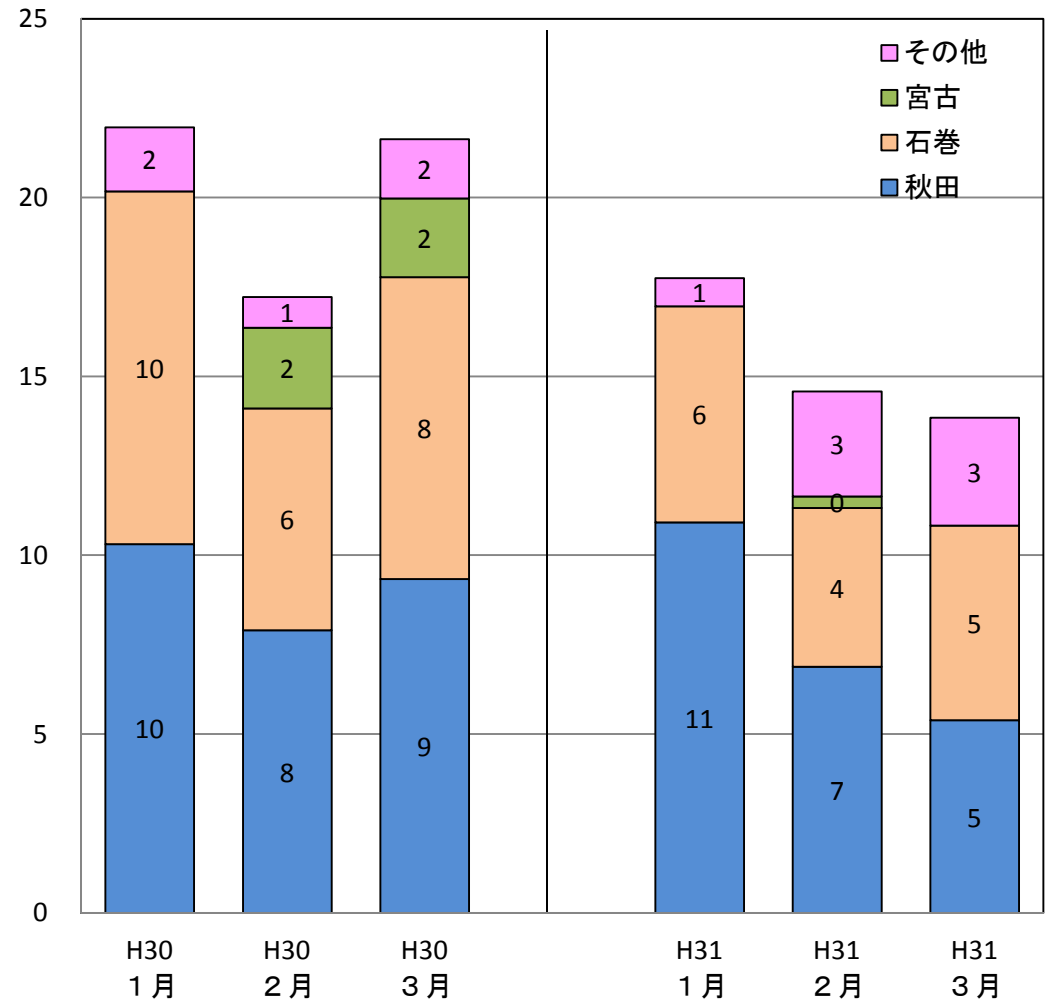
○ 31年1～3月と前年同期を比較すると-24%となっている。

○ 31年1～3月の港別輸入量の比率は、秋田が50.2%、石巻34.5%、宮古0.7%、その他14.6%となっている。

### 針葉樹単板(ロシア)



### 月別港別輸入量

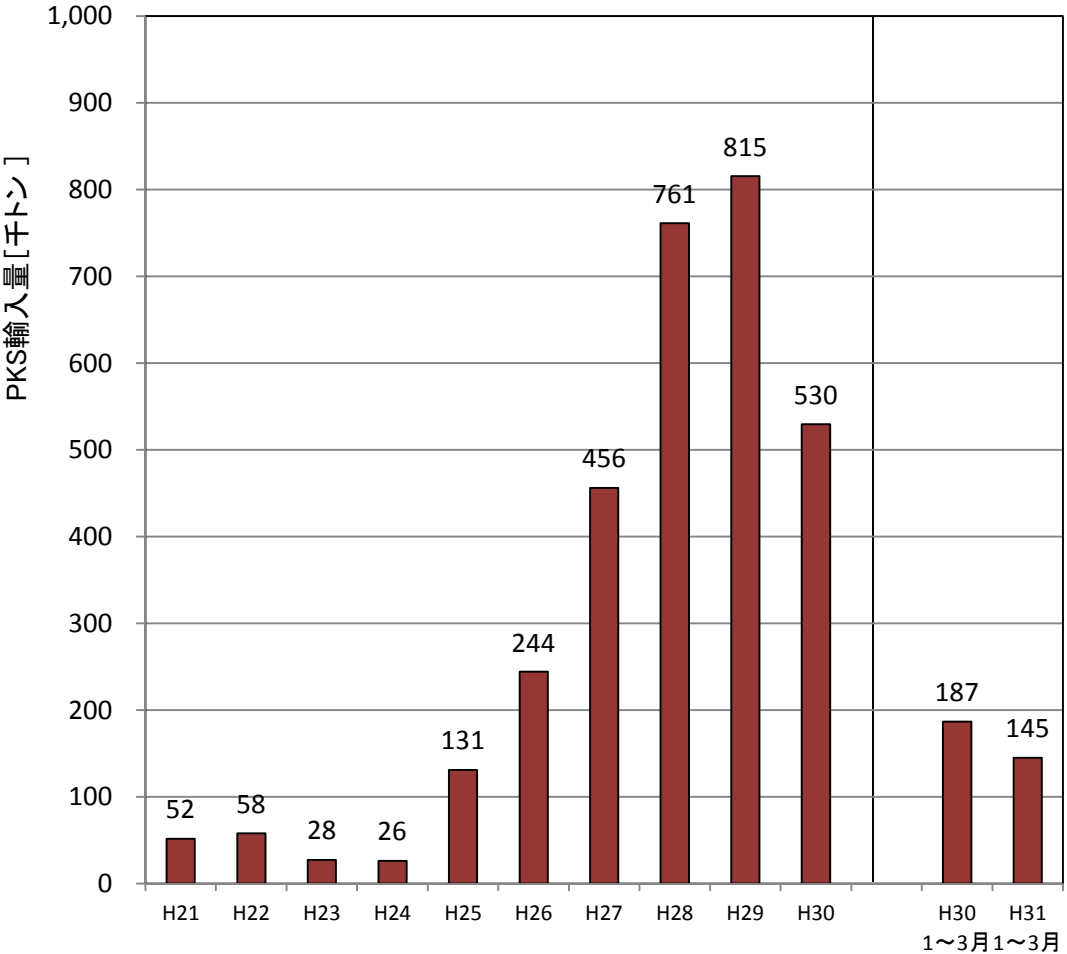




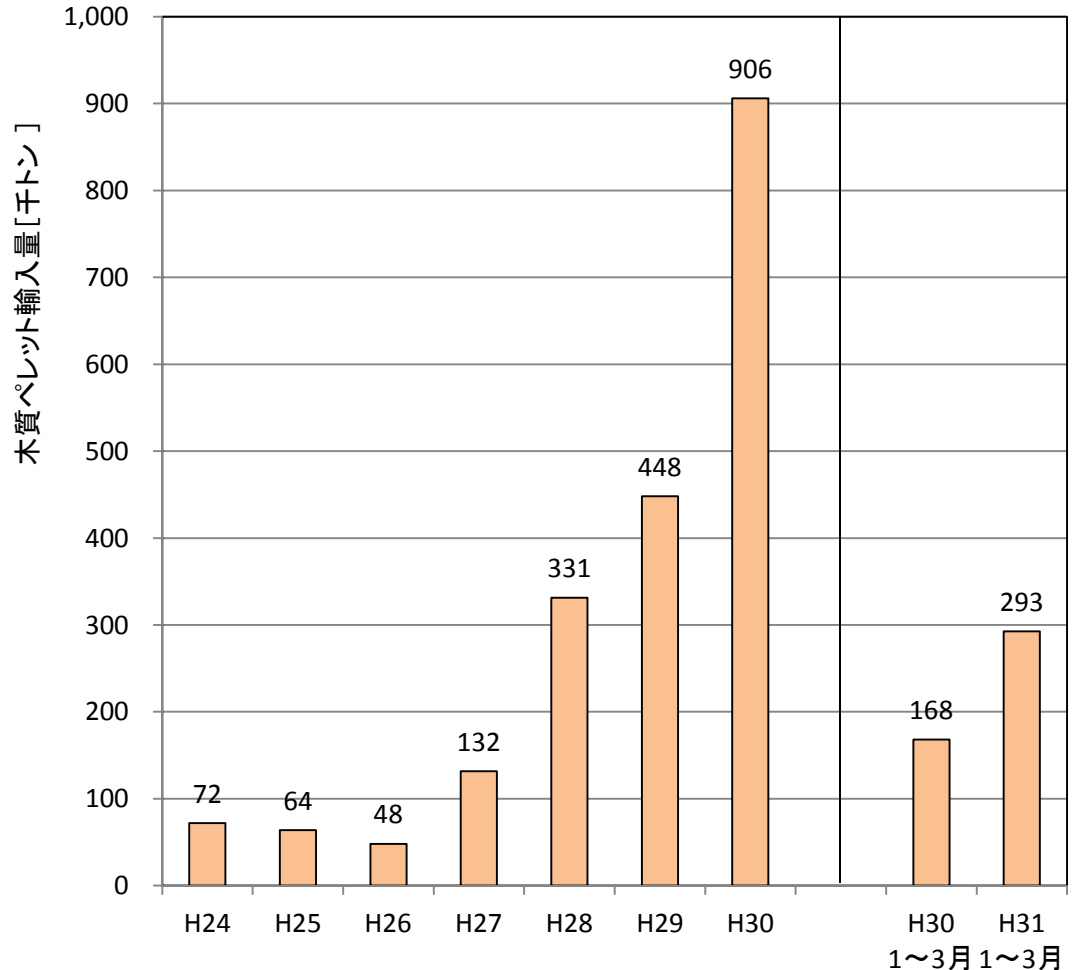
# PKS・木質ペレットの輸入量の推移

- PKS輸入量31年1～3月と昨年同期を比較すると-22%となっている。
- 主な輸入相手国は、インドネシア88%、マレーシア12%となっている。
- 木質ペレット輸入量は増加しており、31年1～3月と昨年同期を比較すると+74%となっている。
- 主な輸入相手国は、カナダ49%、ベトナム42%、オーストラリア7%となっている。

## PKS



## 木質ペレット



出典：財務省「貿易統計」